

近畿自動車道(勢和～伊勢)

埋蔵文化財発掘調査報告

第 4 分 冊

蚊 山 遺 跡 所 り 垣 地 区



1992・3

三重県教育委員会
三重県埋蔵文化財センター

近畿自動車道(勢和～伊勢)

埋蔵文化財発掘調査報告

————— 第 4 分 冊 —————

序

近畿自動車道関・伊勢線にかかる現地の埋蔵文化財発掘調査は、第8次区間（久居～勢和）が昭和63年度に終了し、その年度後半から第9次区間（勢和～伊勢）が開始され、現在に至っております。第9次区間は、多気町・玉城町・伊勢市に所在する30遺跡の調査を対象とし、昭和63年度から調査を行ってまいりました。

第9次区間については、平成5年に予定されている伊勢神宮式年遷宮、及び翌年の祝祭博開催を臨んだ県行政の大幹に関連した道路建設でもあり、当事業にかかる埋蔵文化財の保護とその円滑な調整については鋭意努力いたしている処であります。

第9次区間の路線となる前述の市町が所在する地域は、古来から伊勢神宮との関連が深いことが分かっております。この地域に考古学的なメスを入れることは、当該地域の歴史を考えていくうえで、重要な資料を提供することとなりましょう。また、この調査によって得た資料を基に、当該地域の歴史を考えていくことも発掘調査を行った我々の大きな責務のひとつであり、ここに公刊するする蚊山遺跡所り垣地区についても同様であります。開発と文化財の保存との接点を学術的な方面に求めることも重要なことといえましょう。

調査に際しては、日本道路公団、県土木部近畿道対策室、三重県土地開発公社、並びに伊勢市、多気町、玉城町の各関係機関、及び地元各位の多大なるご理解とご協力を得ることができました。文末となりましたが、ここに心からの御礼を申し上げます。

平成4（1992）年3月

三重県埋蔵文化財センター

所長 中 林 昭 一

例 言

1. 本書は平成3年度に三重県教育委員会が、日本道路公団名古屋建設局から委託を受けて実施した、近畿自動車道間・伊勢線第9次区間（勢和～伊勢）建設予定地内の遺跡発掘調査（整理・報告書作成業務）にかかる報告書のうち、蚊山遺跡所り垣地区の調査報告書（第4分冊）である。
2. 調査（整理・報告書作成業務）にかかる費用は、日本道路公団の全額負担による。
3. 調査（整理・報告書作成業務）の体制は下記のとおりである。

- ・調査主体 三重県教育委員会
- ・調査担当 三重県埋蔵文化財センター調査第2課第1係
調査第2課長 新田 洋 ・ 主事 角谷泰弘（伊勢市教育委員会から派遣）
主事 河瀬信幸 ・ 主事 稲本賢治（多気町教育委員会から派遣）
主事 河北秀実 ・ 主事 前川嘉宏（玉城町教育委員会から派遣）
(室内整理員)
反町登子・谷久保美知代・采野妙子・竹内ゆかり

4. 本書作成にかかる各整理は上記体制で行い、報文の執筆分担については目次及び各文末にも明記した。また、遺物整理、報文執筆にあたっては、下記の方々からご指導、助言を賜った。記して謝意を表する。
(順不同、敬称略)

菅 原 正 明（勢和歌山県文化財センター次長）
藤 澤 良 祐（瀬戸市教育委員会文化財課）
橋 本 久 和（高槻市埋蔵文化財センター技師）

5. 当遺跡については、既に『きんき道調査ニュース№23』（三重県埋蔵文化財センター1989.9）、及び『近畿自動車道（勢和～伊勢）埋蔵文化財発掘調査概報Ⅵ』（三重県教育委員会・三重県埋蔵文化財センター1990.3）にその調査概要を公表しているが、本書をもって最終的な報告とする。なお、これらのニュース・概報では当遺跡を「宮地遺跡」と呼称していたが、本報告書では、今回の調査区が広大な遺跡範囲をもつ蚊山遺跡の一部であるという理解のもとに、調査区が所在する主な小字名をとり、「蚊山遺跡所り垣地区」と改名した。
6. 蚊山遺跡所り垣地区の記録類、出土遺物は三重県埋蔵文化財センターにて保管している。
7. 当遺跡で使用した遺構表示略記号は下記のとおりである。また、遺構実測図作成にあたっては、国土調査法による第Ⅵ座標系を基準とし、図面上の方位は座標北を用いた。

SB 掘立柱建物 SD 溝 SX 中世墓 SK 土坑 SZ 不明

8. スキャンニングによるデータ取り込みのため、若干のひずみが生じています。各図の縮尺率はスケールバーを参照ください。

目 次

I. 前 言	1
1. 調査に至る経過	(新田 洋) 1
2. 調査の体制	(稲本 賢治) 1
3. 調査及び整理の方法	(稲本 賢治) 2
4. 調査の経過	(稲本 賢治) 3
II. 蚊山遺跡と周囲の遺跡	(前川 嘉宏) 9
III. 蚊山遺跡所り垣地区	(稲本 賢治) 13
1. はじめに	13
2. 遺構	13
3. 遺物	25
4. 結語	42

図 版 目 次

P L. 1 調査前風景	43	P L. 6 SK22 遺物出土状況	48
調査区全景		SK24	
P L. 2 A地区全景	44	P L. 7 SK28	49
B地区全景		S Z35	
P L. 3 SB1	45	P L. 8 SD40 土師器皿出土状況	50
SB2・3		SD49 土師器皿出土状況	
P L. 4 SB4	46	P L. 9 出土遺物	51
S X 6		P L. 10 出土遺物	52
P L. 5 SK13	47	P L. 11 出土遺物	53
SK18 検出状況		P L. 12 出土遺物	54

挿 図 目 次

第1図	近畿自動車道9次区間(勢和~伊勢) 内遺跡位置図	4	第10図	B地区土層断面図	19
第2図	調査区位置図	8	第11図	S B 1・2実測図	20
第3図	調査区小地区割図	8	第12図	S B 3・4実測図	21
第4図	周囲の遺跡位置図	10	第13図	S X 6実測図	22
第5図	遺跡地形図	12	第14図	S K 13・16・24・28実測図	23
第6図	遺構配置図	14	第15図	S Z 35実測図	24
第7図	A地区遺構平面図	15・16	第16図	出土遺物実測図	39
第8図	B地区遺構平面図	17	第17図	出土遺物実測図	40
第9図	A地区土層断面図	18	第18図	出土遺物実測図	41

表 目 次

第1表	発掘調査遺跡一覧	5	第5-5表	出土遺物観察表	32
第2表	発掘調査遺跡一覧	6・7	第5-6表	出土遺物観察表	33
第3表	周囲の遺跡一覧	11	第5-7表	出土遺物観察表	34
第4表	掘立柱建物一覧	13	第5-8表	出土遺物観察表	35
第5-1表	出土遺物観察表	28	第5-9表	出土遺物観察表	36
第5-2表	出土遺物観察表	29	第5-10表	出土遺物観察表	37
第5-3表	出土遺物観察表	30	第5-11表	出土遺物観察表	38
第5-4表	出土遺物観察表	31			

I. 前 言

1. 調査に至る経過

近畿自動車道間・伊勢線（伊勢自動車道）の第9次区間（勢和～伊勢）の建設区間については、昭和47年に基本計画、57年に整備計画が、そして昭和60年2月に建設大臣から日本道路公団に施行命令が出されている。また、翌月の3月には実施計画認可と路線発表がなされている。

この第9次区間は、第8次区間（久居～勢和）の延長路線として、勢和・多気インターチェンジから仮称伊勢インターチェンジまでの延長21.5kmの建設計画であり、行政区間としては、勢和村、多気町、玉城町、伊勢市をほぼ東西に横断する形をとっている。

この路線は、三重県の中・南伊勢と近畿及び中部経済圏とを結ぶ幹線道路として、一般国道23・42号の交通緩和とともに伊勢湾岸と内陸部の産業、あるいは伊勢志摩・紀州への観光ルートとしての大きな使命をもつものといわれている。そのうち、第8次区間（久居～勢和）については、平成2年12月に供用開始されている。

さて、第9次区間（勢和～伊勢）建設にかかる埋蔵文化財の保護、調整協議については、昭和50年段階に建設省名阪回造工事事務所、県土木部道路建設課と県教育委員会文化課との協議と現地立会い調査という形で開始された。また、事業地内にかかる埋蔵文化財の分布調査については、昭和53・55・56年に3次にわたって県教育委員会文化課が県文化財調査員等の協力を得て実施し、昭和56年3月14日付、教文第429号で道路建設課長あてに「近畿自動車道伊勢線関係遺跡分布調査結果報告について」として公文書通知をしている。

その後については、第8次区間（久居～勢和）の埋蔵文化財発掘調査の体制と諸準備に追われた形となり、昭和59年度末には第8次区間の現地発掘調査を実施するに至った。この第8次区間の現地発掘調査には昭和59年度を皮切りに開始され、昭和63年度前半までの足かけ5年余の期間が費やされた。

第9次区間（勢和～伊勢）の遺跡取り扱いについては、昭和61年度になって具体的に浮上し、試掘計画等について、日本道路公団松阪工事事務所と調整・協議するに至った。また、昭和62年度初めには、再度、第9次区間建設予定地についての遺跡確認と分布調査を実施した。この段階で公団あてに提示した遺跡は計26件、面積にして114,200㎡である。

なお、この第9次区間については、その後の新発見遺跡等についての協議を経て、多気町で1件（佐奈水銀鉱山跡）、玉城町で1件（泉真窟跡）、伊勢市内で2件（大谷古墳、古市・中之地蔵町遺跡）の遺跡が追加されている。

以上のような経過を経て、第9次区間の現地における埋蔵文化財発掘調査は、昭和63年度の後半期から開始することとなった。

また、最後となりますが、調査の円滑推進にあたっては、日本道路公団松阪工事事務所、県土木部近畿道対策室、伊勢市建設部近畿自動車道対策室、伊勢市・多気町・玉城町の各教育委員会に、現地にあたっては各地元自治会長をはじめ、多くの方々のご援助を得ました。加えて、発掘業務については三重県土地開発公社のご協力をいただきました。文末ながらここに記して厚くお礼申し上げます。

（新田 洋）

2. 調査の体制

調査は三重県教育委員会が主体となり、三重県埋

蔵文化財センターが担当した。

以下は蚊山遺跡所り垣地区の発掘調査が実施された平成元年度の調査体制である。

主幹査調査第2課長 山澤義貴

主 査 新田 洋

主 事 田村陽一

◇ 河北秀実

◇ 小坂宜広

◇ 山崎恒哉

◇ 江尻 健

◇ 伊藤裕偉

◇ 角谷泰弘

◇ 稲本賢治

◇ 前川嘉宏

室内整理員 反町登子

◇ 谷久保美知代

◇ 采野紗子

◇ 吉村道子

◇ 白石みよ子

◇ 山分孝子

室内整理員 竹内由美

◇ 田中智子

◇ 中山 学

◇ 反町有子

調査指導（順不同、敬称略）

水野正好（奈良大学教授）

泉 拓良（奈良大学助教授）

玉田芳美（奈良国立文化財研究所文部技官）

磯部 克（三重県立津西高等学校教諭）

奥 義次（度会町教育委員会）

発掘調査土木工事部門担当

三重県土地開発公社

堀内信吾

稲葉庄衛

平生 憲

浜口安光

（稲本賢治）

3. 調査及び整理の方法

蚊山遺跡所り垣地区の発掘調査における調査及び整理の方法は、原則として近畿自動車道間・伊勢線第8次区間（久居～勢和）の調査方法に則って行った。

1. 現地調査の方法

地区割

調査に際しては、調査区をほぼ東西に横切る農道を境にして、北側をB地区、南側をA地区と呼称することにした。

また、調査区全域に4m×4mの小地区を設定した。小地区割の基本軸は、道路センター測点STA603+20を原点とし、STA601+80を視準して設定した。小地区の設定にあたっては、当調査区に隣接する蚊山遺跡左部地区の小地区設定と同時に実施したため、基本軸の原点と視準点は蚊山遺跡左部地区の調査区内にある。

各小地区には基本軸に直交してアルファベット、

基本軸に沿ってアラビア数字を与え、各小地区の西隅の枕を小地区の名称とした。この小地区割の作業は第1次調査（試掘調査）の時点でを行い、第2次調査（本調査）でもそれを踏襲した。（第3図）

遺構カード

遺構カードは原則として4m×4mの小地区毎に作成し、遺構略図は遺構検出後、掘り下げまでに記入した。さらに、遺構の重複関係、土質、出土遺物等の現場で判明した情報を可能な限り記入した。

掘立柱建物・土坑・溝等の遺構番号は全遺構を通して番号を与えた。ただし、多数あるピットについては小地区別に通し番号を与えた。

写真撮影

遺構等の写真撮影は原則として6×7cm版（モノクロネガ、カラーリバーサル）及び35mm版（モノクロネガ、カラーリバーサル）による。また、35mmズームカメラ（カラーネガ）でも同一カットの撮影をするほか、作業進捗状況にあわせて日誌としての撮影

も行った。

使用したカメラはアサヒペンタックス67（6×7cm版）・ニコンF-501AF（35mm版）である。

遺構実測

道路工事計画に関する杭が国土座標に基づくため、将来予想される隣接地での発掘調査との関連が把握できるように、遺構実測は国土座標（第VI座標系）に基づいて行った。なお、実測方法は遺り方実測と平板測量を用いた。

2. 資料整理の方法

遺構実測図・遺物実測図

本遺跡の遺構実測図の整理番号は16-0001~16-0084、遺物実測図の整理番号は16-0001~16-0179である。これらの図面はファイルに収納し、整理番号、図面の内容、縮尺等を記入した一覧表を2部作

成し、1部を各図面ファイルに貼付、他の1部を綴じ込んで図面台帳とした。なお、各図面ともマイクロ撮影した。

遺構写真・遺物写真

モノクロ写真はベタ焼きとともにネガアルバムに貼付整理し、各コマ毎に地区名、遺構名、撮影方向等のデータを記入した。

遺構を撮影した35mm版のカラーズライドは各コマの枠毎に16-0001~16-0307の整理番号を付し、地区名、遺構名、撮影方向等のデータを記入した一覧表を作成し、1部をスライドファイルへ貼付し、1部を台帳として保管した。

拓本

拓本は、報告書挿図等に使用する時はコピーを使い、原本は台紙に貼り付けてファイルに保管した。

（橋本賢治）

4. 調査の経過

第1次調査（試掘調査）は、平成元（1989）年1月26日から同年2月2日にかけて行った。調査面積は、114㎡であった。その結果、遺構が検出された調査区の南西部および北西部を中心に調査区を設定し、平成元（1989）年5月15日から同年9月21日にかけて第2次調査（本調査）を行った。第1次調査の結果から、A地区は表土直下から約20cmの堆積が認められる黒褐色砂質土を遺物包含層である暗褐色砂質土の直上までバックフォーにて掘削した。B地区は、遺物包含層が薄く、約30cmの堆積が認められる灰黄褐色粘質土を遺構検出面である褐色粘質土の直上までバックフォーにて掘削した。遺構の検出・掘削は全て人力で行った。最終調査面積は、3,200㎡であった。

《調査日誌抄》

第1次調査（試掘調査）

- 1月26日（木）現地での調査開始。
- 1月27日（金）G13で中世の土師器・刀子等出土。
- 2月1日（水）R・S19でピット確認。
- 2月2日（木）試掘坑の埋め戻し完了。

第2次調査（本調査）

- 5月15日（月）業者入札。俣山野建設が落札。

- 5月16日（火）業者との現地協議。
- 5月22日（月）重機にて調査区の表土掘削。
- 5月24日（水）・25日（木）A地区にトレンチを入れ土層を確認。
- 5月26日（金）B地区の包含層掘削開始。
- 5月29日（月）～6月1日（木）B地区の包含層掘削と遺構検出。
- 6月5日（月）B地区の東端でチャート剥片・石核が出土。A地区の包含層掘削開始。
- 6月7日（水）A地区の包含層掘削と遺構検出。
- 6月8日（木）A地区I13付近の包含層から土師器片が多量に出土。
- 6月12日（月）A地区の包含層掘削と遺構検出。
- 6月13日（火）SD40・SZ35を検出。
- 6月14日（水）SB1・SK13を検出。
- 6月20日（火）・21日（水）A地区の包含層掘削と遺構検出。
- 6月26日（月）B地区の遺構掘削終了。
- 6月27日（火）～29日（木）B地区写真撮影とA地区の包含層掘削。
- 6月30日（金）A地区の包含層掘削と遺構検出。
- 7月4日（火）A地区の包含層掘削と遺構検出。



第1図 近畿自動車道9次区間(勢和～伊勢)内遺跡位置図 (1:100,000)

近畿自動車道第9次区間(勢和～伊勢)
埋蔵文化財発掘調査計画

No.	遺跡名	所在地	埋蔵面積(㎡)	昭和63年度				平成2年度				平成3年度		合計
				試掘	本調査	試掘	本調査	試掘	本調査	試掘	本調査			
				48		144								
1	壬子谷遺跡	多気町新井字壬子谷	1,000											192
2	横谷(内堀)	〃 〃 字横谷、五柱字ツツジ	100			27								27
3	ツツジ(中堀)	〃 〃 五柱字ツツジ	100			20								20
4	牛ノサヤマ遺跡	〃 〃 野中半井字サヤマ・空堀	1,500	304		3,000								3,304
5	牛ノサヤマB遺跡	〃 〃 〃 〃 〃 ナルコ	4,700	386	(1,200)									5,836
6	ヒノヤキ川遺跡	玉城町東字ヒノヤキ・国東河内	5,600	288										288
7	のせんと遺跡	〃 〃 横高字のせんと・泉賀	1,000	96										96
8	橋ノ内遺跡	〃 〃 字橋ノ内	2,800	192	(2,000)		2,500							2,692
9	上ノ畑内遺跡	〃 〃 山神字上ノ畑内・坂ノ辻	3,400	196										196
10	塚ヶ畑遺跡	〃 〃 字塚ヶ畑	2,000					266	2,180					2,466
11	山神塚遺跡	〃 〃 字塚ヶ畑	2,700					441	3,922					4,363
12	黒山(古墳)	〃 〃 字黒山・黒原谷・神山	100			30								30
13	橋ノ木遺跡	〃 〃 橋ノ木・二ノ谷・ヤケ山堀	39,000			2,032	6,800							8,922
14	矢倉戸前(古墳)	〃 〃 古古字藤谷	100			20								20
15	鞍山遺跡(石塚地区)	〃 〃 鞍山字塚名・石塚	10,000	587			11,500							12,087
16	鞍山遺跡(所分地区)	〃 〃 所分字塚名・所分堀	2,300	144			3,200							3,344
17	中ノ畑外遺跡	伊勢市在八町字中之畑外	4,400			400	2,100							2,500
18	寺尾B遺跡	〃 〃 寺寺原	2,400			224	500							724
19	ハノカ遺跡・山田遺跡	〃 〃 法村字ハノカ・口山田、在八町字前門	10,000			792		147	2,800					3,739
20	落台古墳群	〃 〃 字口山田	1,200			151			3,165					3,316
21	井戸谷遺跡	〃 〃 井山町字井戸谷	400			336								336
22	河原谷遺跡	〃 〃 字河原谷	100						100					100
23	亀谷部C遺跡	〃 〃 字亀谷部	3,500			312			2195					2,507
24	中起遺跡	〃 〃 勢田町字中起	3,500					257						257
25	黒尾遺跡	〃 〃 久野戸字黒尾	520							32	520			552
26	黒尾遺跡	〃 〃 勢田町字黒尾	11,800						494					494
27	泉賀遺跡	玉城町橋高字泉賀・岡山玉岡	4,500			330			2,556					2,886
28	佐奈木御家山遺跡	多気町新井字口谷	400			400								400
29	入谷(古墳)	伊勢市在八町字入谷	400						120					120
30	古井中之畑外遺跡	〃 〃 中之畑・板木町	5,000									112	2,500	2,612
計				124,520	2,191	(3,200)	4,818	35,580	1,745	16,918	144		18,663	64,426
合計					2,191+	(3,200)	40,408					3,164		

第1表 発掘調査遺跡一覧

番号	遺跡名	所在地	調査面積(m ²)		調査期間	担当者	概要	所収 分冊
1	王子谷遺跡	多気町前村	48	計 192	1989. 2. 6～ 2. 7	小坂 宣広 山崎 恒哉	(試掘) 遺構なし、遺物 細片	1
			144		1990. 1. 12～ 1. 18	伊藤 裕隆	(試掘) 遺構なし、遺物 細片	
2	桃谷(古墳)	多気町前村 五松	27	27	1990. 1. 18～ 1. 22	伊藤 裕隆	(試掘) 遺構・遺物なし	
3	ツツジ(古墳)	多気町五柱	20	20	1990. 1. 22～ 1. 23	伊藤 裕隆	(試掘) 遺構・遺物なし	
4	牛バヤマA遺跡	多気町野中	304	3,304	1989. 1. 9～ 2. 7	山崎 恒哉	(試掘)	1
			3,000		1989. 11. 17～ 1990. 1. 11	山崎 恒哉	縄文時代以降の土器出土	
5	牛バヤマB遺跡	多気町野中	336	5,836	1988. 12. 12～ 1989. 1. 19	山崎 恒哉	(試掘)	1
			5,500		1989. 5. 22～ 8. 8	江尻 健	鎌倉時代の掘立柱建物検 出	
6	ヒジヤ口遺跡	玉城町原	288	288	1988. 11. 28～ 12. 1	小坂 宣広 野田 修久	(試掘) 遺構なし、遺物 少量	
7	のせんじ遺跡	玉城町積良	96	96	1988. 12. 2～ 12. 7	小坂 宣広 野田 修久	(試掘) 遺構なし、遺物 少量	
8	瀬ノ内遺跡	玉城町積良	192	2,692	1989. 2. 22～ 3. 3	小坂 宣広 野田 修久	(試掘)	1
			2,500		1990. 2. 8～ 3. 22	江尻 健	縄文時代以降の土器出土	
9	上ノ町内遺跡	玉城町山神	208	208	1988. 12. 20～ 12. 26	小坂 宣広 野田 修久	(試掘) 遺構なし、遺物 少量	
10	山神城跡西老谷地区 (宮ヶ城跡)	玉城町山神	286	2,466	1990. 5. 15～ 6. 1	橋本 賢治	(試掘)	2
			2,180		1990. 7. 20～ 12. 27	橋本 賢治 大川 勝宏	中世の堀切など検出	
11	山神城跡ベト谷地区 (山神東城跡)	玉城町山神	441	4,363	1990. 5. 15～ 6. 1	橋本 賢治	(試掘)	2
			3,922		1990. 7. 20～ 12. 27	橋本 賢治 大川 勝宏	中世の堀切・墓など検出	
12	釜山(古墳)	玉城町山神	30	30	1990. 2. 13～ 2. 14	江尻 健	(試掘) 遺構・遺物なし	
13	樋ノ木遺跡	玉城町藤田	2,032	8,922	1990. 5. 16～ 6. 5	田村 陽一	(試掘)	3
			6,890		1990. 6. 29～ 11. 17	伊藤 裕隆	平安時代末～室町時代後 半の屋敷地や墓池を検出	
14	矢倉戸前(古墳)	玉城町宮古	20	20	1989. 9. 1～ 9. 6	伊藤 裕隆	(試掘) 遺構・遺物なし	1
15	鞍山遺跡左郡地区 (鞍山遺跡)	玉城町岩出	587	12,087	1989. 1. 10～ 2. 2	小坂 宣広 野田 修久	(試掘)	6
			11,500		1989. 5. 16～ 1990. 3. 20	小坂 宣広 橋本 賢治 角谷 泰弘 前川 卓宏	古墳の周溝、中世の掘立 柱建物跡・墓など多数検 出	
16	鞍山遺跡所り塚地区 (富地遺跡)	玉城町岩出	144	3,344	1989. 1. 26～ 2. 2	小坂 宣広 野田 修久	(試掘)	4
			3,200		1989. 5. 22～ 9. 21	山崎 恒哉 橋本 賢治	平安時代末の墓、鎌倉時 代の掘立柱建物など検出	

第2表 発掘調査遺跡一覧(太ゴチックは本書所収遺跡)

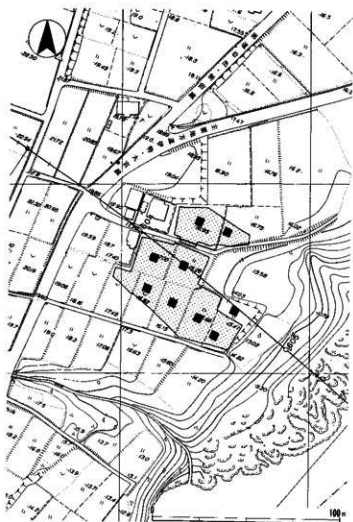
番号	遺跡名	所在地	調査面積(m ²)		調査期間	担当者	概要	所収分冊
17	中ノ廻外遺跡	伊勢市佐八町	400	2,500	1989. 9. 18～10. 3	田村 隆一	(試掘)	5
			2,100		1989. 11. 13～12. 23	前川 高宏	平安時代末葉の掘立柱建物検出	
18	寺原B遺跡	伊勢市佐八町	224	724	1989. 9. 18～10. 3	田村 隆一	(試掘)	5
			500		1989. 11. 14～1990. 1. 14	角谷 幸弘	鎌倉時代前半の掘立柱建物検出	
19	ハノカ遺跡	伊勢市津村町	208	3,739	1990. 2. 14～ 3. 27	角谷 幸弘 前川 高宏	(試掘)	5
			147		1990. 5. 31～ 6. 11	角谷 幸弘	(試掘)	
	2,100	1990. 5. 31～ 8. 1	角谷 幸弘		縄文時代・鎌倉時代の土器出土			
	口山田遺跡	伊勢市津村町 佐八町	384		1990. 2. 14～ 3. 27	角谷 幸弘 前川 高宏	(試掘)	
700			1990. 5. 31～ 8. 1	角谷 幸弘	炭石遺構検出			
20	落合古墳群	伊勢市津村町	151	3,316	1990. 2. 14～ 3. 27	角谷 幸弘 前川 高宏	(試掘)	7
			3,165		1990. 4. 24～10. 31	伊藤 裕寿	4世紀末頃～6世紀前期の群集墳	
21	井口谷遺跡	伊勢市前山町	336	336	1990. 3. 14～ 3. 27	角谷 幸弘 前川 高宏	(試掘) 明確な遺構なし	8
22	河原谷遺跡	伊勢市前山町	100	100	1990. 10. 11～10. 17	角谷 幸弘 川崎 正幸	遺物少量出土	
23	龜谷部C遺跡 (世義寺跡)	伊勢市前山町	312	2,507	1990. 2. 14～ 3. 27	角谷 幸弘 前川 高宏	(試掘)	8
			2,195		1990. 5. 7～7. 9	齋藤 直樹 前川 高宏	経文が記された陶器片出土	
24	中起遺跡	伊勢市勢田町	257	257	1990. 10. 16～10. 23	伊藤 裕寿	(試掘)	2
25	短尾遺跡	伊勢市久世戸町	32	32	1991. 8. 19	河藤 信幸	(試掘) 遺構・遺物なし	
26	奥遺跡	伊勢市橋部町	494	494	1990. 10. 23～11. 1 1991. 1. 14～ 1. 16	齋藤 直樹	(試掘) 遺構なし、遺物少量	1
27	泉貫遺跡	玉城町横良	330	2,886	1989. 5. 22～ 5. 29	伊藤 裕寿	(試掘)	
28	佐奈水銀鉱山跡	多気町前村	400		400	1990. 1. 16～ 3. 30	田村 隆一	2基の探検坑口周辺を調査
29	大谷(古墳)	伊勢市佐八町	120	120	1990. 7. 2～ 7. 7	前川 高宏	(試掘) 遺構・遺物なし	8
30	古市・中之地蔵町遺跡	伊勢市中之町 板木町	127	2,287	1990. 10. 22～11. 5	角谷 幸弘	(試掘)	
			850		1991. 6. 22～ 8. 31	角谷 幸弘 河北 秀実 橋本 賢治	近世以降の町並の遺構を検出	
			420		1991. 8. 20～ 9. 16	前川 高宏 角谷 幸弘		
			220		1991. 11. 18～12. 8	角谷 幸弘		
670	1992. 1. 10～ 3. 31	河北 秀実						

※調査総面積は63,593m²、ただし本調査面積に試掘面積が重複する遺跡あり。

7月5日(水) B地区の平板測量。
 7月6日(木) SX6・SB2・SB3を検出。
 7月7日(金) A地区の包含層掘削と遺構検出。
 7月11日(火) A地区の包含層掘削と遺構検出。
 7月12日(水) SK22を検出。
 7月14日(金) SK29を検出。
 7月15日(土) A地区の包含層掘削と遺構検出。
 7月17日(月)～21日(金) A地区の包含層掘削と遺構検出。
 7月24日(月) A地区の遺構掘削終了。
 7月28日(金) 遺構平面図作成準備。
 7月31日(火) 調査区全景写真撮影。
 8月1日(火)～4日(金) 遺構写真撮影。遺構実測図作成。

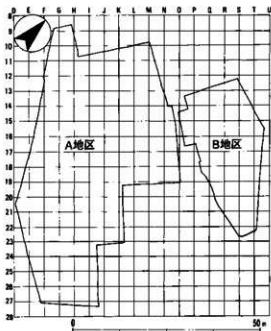
8月8日(火)～11日(金) 遺構実測図作成。
 8月16日(水)～18日(金) 遺構実測図作成。下層の調査。
 8月21日(月)～24日(木) 下層の調査。
 8月28日(月)～9月1日(金) 土層断面図作成。
 9月2日(土) 現地説明会。
 9月4日(月)～7日(木) SB1検出のため調査区を拡張。
 9月11日(月)～14日(木) 下層調査範囲実測。
 9月18日(月) 下層調査範囲写真撮影。
 9月20日(水)～21日(木) 遺り方実測範囲外の平板測量。現地での調査終了。

(稲本賢治)



第2図 調査区位置図 (1:2,000)

[黒ベタは第1次調査試掘坑位置・網目は第2次調査範囲]



第3図 調査区小地区割図 (1:1,000)

II. 蚊山遺跡と周囲の遺跡

三重県と奈良県との県境にある大台ヶ原山(1,696 m)付近に源を発する一級河川宮川は、南西から北東方向へゆるく蛇行しながら多気・度会の両郡を貫流して伊勢湾に注ぐ。その河口から約11km上流に遡った宮川左岸の河岸段丘上に度会郡玉城町岩出の集落がある。集落から約1km南は度会郡度会町で、宮川の右岸は伊勢市域である。

このあたりには旧石器時代から中世にかけての各時代の遺跡が広く分布しており、蚊山遺跡もその一つである。蚊山遺跡とその周囲の遺跡については来年度刊行予定の第6分冊(蚊山遺跡左郡地区)で詳述するので、ここでは蚊山遺跡の概略を述べ、周囲の遺跡の位置図(第4図)および一覧表(第3表)を掲載するにとどめる。

蚊山遺跡

岩出集落の南側には宮川と丘陵とに挟まれた標高15・24mの細長い段丘面が広がる。基盤は片理がよく発達した緑色片岩で、その上には耕作土として利用されている黒色の砂質シルト(黒ボク)が堆積している。近畿自動車道の路線はこの段丘面のほぼ中央部を北西から南東方向へ横切って宮川を渡る。

この段丘面上には各時代の遺物が広く散布しており、特に中世の土器片が多くみられる。路線のすぐ北側の字角垣内(すみがいと)ではナイフ形石器や剥片が表面採集されている^①。また、地元の方の話では、路線近くの畑に戦前まで古墳と思われる小高い塚が存在していたとのことであり、地元にはこのあたりに寺があったという伝承も残っている。

蚊山遺跡の範囲は当初は自動車道の路線の南側にほぼ隣接する字蚊山を中心とした約10,000㎡を指していた。しかし、平成元(1989)年度に実施された近畿自動車道建設に伴う2件の発掘調査(字左郡・塚名の調査=約11,500㎡、所り垣・塚名の調査=3,200㎡)において、古墳の痕跡である周溝や中世の独立柱建物・井戸・墓塚等多数の遺構が発出され、遺構が路線範囲を越えて広く存在することが予想されたため、この2件の調査区名を蚊山遺跡の左郡

(さこり)地区、所り垣(しよりがき)地区とした。さらに、平成2(1990)年度に実施された県道改良事業に伴う発掘調査(約3,500㎡)^②においても左郡地区や所り垣地区と一連のものと考えられる多数の遺構が発出されたことにより、蚊山遺跡の範囲がさらに北側に大きく広がることが確認された。現在のところ、蚊山遺跡の範囲は岩出集落の南側に広がる段丘面のほぼ全域にわたる約150,000㎡と考えられる。

最も調査面積が広い左郡地区の調査では、整理箱で500箱以上の遺物が出土し、後期古墳の周溝21基、独立柱建物44棟、井戸12基、中世墓約40基等の多数の遺構が発出された。平成2(1990)年度の調査で検出された遺構は、後期古墳の周溝4基(うち1基は左郡地区で検出された周溝の一部)、鎌倉時代の独立柱建物6棟、井戸3基、土塚墓13基、室町時代の井戸3基などである^③。所り垣地区の調査結果については本書に述べられている。

このように、蚊山遺跡からは旧石器時代以降の各時代の遺物が出土しているが、鎌倉時代・室町時代のものが圧倒的に多い。平安時代以前のものは少なく、弥生時代以前のものはきわめて稀である。発掘調査で検出された遺構で時期の判明しているものは、古墳の痕跡である周溝を除いてほとんどが平安時代末葉以後の中世のものである。

(前川嘉宏)

〔註・参考文献〕

- ① 吉田典隆「度会郡玉城町ナリコ遺跡発見の石器について」『多跡』2号 泉学館大学考古学研究会 1972
美 義次「日遺跡の位置と環境」『土地山遺跡発掘調査報告書』玉城町教育委員会 1985
- ② 現地説明会資料「蚊山遺跡」三重県埋蔵文化財センター 1991
- ③ 「中世墓約40基」としたもの中には不確定なものも数基含まれている。
- ④ ②と同じ。

国中 番号	市町 番号	遺跡名	所在地	時代
1	130	大森遺跡	玉城町石出字大森	縄文以降
2	131	城遺跡	* * 宇城	縄文以降
3	302	城山遺跡	* * 宇佐郡 他	旧石器時代
4	134	まん上遺跡	* 中興字まん上	弥生以降
5	135	との山遺跡	* * 宇上の山	弥生以降
6	136	アレキリ遺跡	* * 宇アレキリ	旧石器・古墳以降
7	269	景田北遺跡	* 景田字遺跡	中世
8	270	里内遺跡	* 小枝谷里字里内	中世
9	272	小社遺跡	* * 宇ウエ松他	弥生以降
10	271	中ノ切遺跡	* 山岡字中ノ切	鎌倉
11	273	上黒土遺跡	* * 宇上黒土	古墳～鎌倉
12	400	宮岡里遺跡	* 宮岡字里山	中世
13	377	杉山遺跡	* 岡田字杉山	弥生・平安以降
14	137	明正遺跡	* 宮古字明正	縄文以降
15	138	熊谷遺跡	* * 宇熊谷	縄文以降
16	148	上久保遺跡	* * 宇上久保	縄文・古墳以降
17	149	道小内遺跡	* * 宇道小内	縄文・古墳以降
18	274	寺越遺跡	* * 宇寺越	縄文以降
19	301	坊田遺跡	* * 宇坊田	中世
20	368	上黒山遺跡	* * 宇上黒山 他	旧石器・弥生
21	369	東村遺跡	* * 宇東村	縄文・平安以降
22	376	下之越内遺跡	* * 宇下ノ越内	旧石器・平安以降
23	378	笠原遺跡	* * 宇笠原	縄文・平安以降
24	147	浜原入遺跡	* 藤田字浜原	縄文・古墳以降
25	156	矢野々遺跡	* * 宇矢野々	弥生以降
26	157	浜原日遺跡	* * 宇浜原	弥生以降
27	288	こほれ松遺跡	* * 宇こほれ松	縄文以降
28	289	中庄遺跡	* * 宇中庄	中世
29	364	東のび遺跡	* * 宇東のび	旧石器以降
30	372	鉄輪坂遺跡	* * 宇鉄輪坂	縄文・古墳以降
31	375	押野池しき遺跡	* * 宇押野池しき	縄文・平安以降
32	8	窠子遺跡	* 中興字窠子	旧石器
33	368	東長遺跡	* 妙法寺字東長 他	平安以降
34	401	上町遺跡	* 田丸字上町	中世
35	295	成瀬八遺跡	* 下田辺字成瀬	古墳
36	365	ミドロ遺跡	* * 宇ミドロ	旧石器
37	367	赤白山遺跡	* * 宇赤白山	縄文
38	392	成瀬日遺跡	* * 宇成瀬	弥生・京町
39	393	土山遺跡	* * 宇土山	古墳以降
40	410	高垣内遺跡	* * 宇高垣内	中世
41	3	藤原新田遺跡	成会町藤原新田	弥生
42	4	黒土遺跡	* * 宇黒土	古墳以降
43		上ノ畑外遺跡	* * 宇上ノ畑外	縄文以降
44	96	鬼の窟遺跡	伊勢市上地町字鬼の窟	古墳以降
45	105	湯野野遺跡	* * 宇湯野野	室町
46	118	野原内遺跡	* * 宇野原内	弥生・平安以降
47	130	中久保日遺跡	* * 宇中久保	鎌倉以降
48	123	中堂山遺跡	* * 宇中堂山	弥生
49	168	十軒塚遺跡	* * 宇十軒塚	室町
50	169	下中野遺跡	* * 宇下中野	平安以降
51	170	下通遺跡	* * 宇下通	平安以降
52	171	上通遺跡	* * 宇上通	平安以降
53	173	中堂山南遺跡	* * 宇中堂山	弥生以降
54	174	まこも遺跡	* 葉野町字まこも	弥生以降

第3表 周囲の遺跡一覧

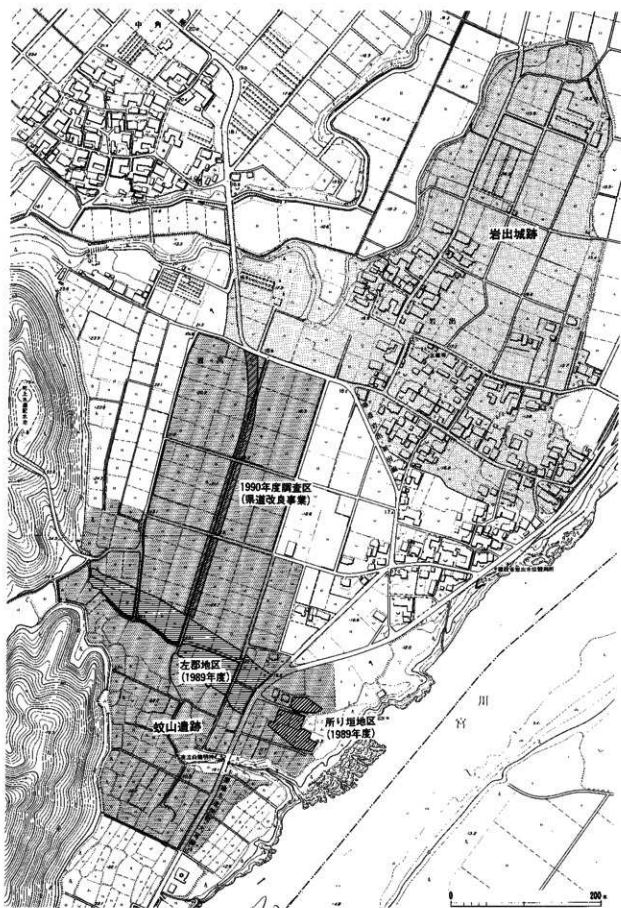
国中 番号	市町 番号	遺跡名	所在地	時代
55	175	辻谷川東遺跡	伊勢市葉野町字まこも	平安以降
56	55	寺原入遺跡	* 在八町寺原	古墳
57	58	在八藤成遺跡	* * 宇藤成	縄文～室町
58	233	下新田遺跡	* * 宇下新田	鎌倉以降
59	236	元新田遺跡	* * 宇元新田	鎌倉以降
50	237	土畑遺跡	* * 宇土畑	室町
61	272	中ノ畑外遺跡	* * 宇中ノ畑外他	縄文～室町
62		寺原日遺跡	* * 宇寺原	鎌倉
63	128	西沢外遺跡	* 津村町西沢外	縄文・古墳以降
64	238	元新田遺跡	* * 白木字元新田	縄文以降
65	240	中野内遺跡	* * 白木字中野内	縄文・古墳以降
66	241	北畑内遺跡	* * 宇北畑内	鎌倉以降
67	242	糠尾遺跡	* * 宇糠尾	室町
68		ハノカ遺跡	* * 宇ハノカ	縄文
69		山田遺跡	* * 宇山田他	
70	129	中庄遺跡	* 内藤町字中庄	鎌倉以降
71	130	坂の上遺跡	* * 宇坂の上	縄文・鎌倉以降

古墳

国中 番号	市町 番号	遺跡名	所在地	備考
72	399	新古墳群	玉城町富岡字新古	7基?
73	140-146	鉄輪塚A古墳群	* 宮古字鉄輪塚	古墳7基
74	150-155 275-286 325-331	矢塚古墳群	* * 宇宮山	円墳25基
75	352-359	鉄輪塚B古墳群	* * 宇鉄輪塚	段塚1基
76	287	浜原古墳	* 藤田字浜原	円墳
77	1-6	茶臼塚古墳群	* 中興字茶臼塚、窠子	円墳6基
78	225-228	中庄古墳群	* * 宇中庄	4基?
79	7	堀田古墳	* 妙法寺字堀田	円墳
80	10-11, 18-265	在田山古墳群	* 在田字在田山 他	4基
81	215-394, 395	土山古墳群	* 下田辺字土山	円墳13基
82	349	東山古墳	* * 宇東山	円墳
83	45	黒ノ山古墳	成会町黒ノ山・玉城町岩出	円墳
84	1	黒土古墳	成会町黒土字黒土	円墳
85	2	新田古墳	* * 宇新田	円墳
86	11	高岡古墳	* 大野字高岡	円墳
87	46	丸山古墳	*	円墳
88	97-104	まこも古墳群	伊勢市葉野町字まこも	円墳8基
89	43	中黒古墳	* 在八町字中黒	
90	44-52	藤成古墳群	* * 宇藤成	9基
91	53	高岡山古墳	* * 宇高岡山	
92	54	玉田山古墳	* * 宇玉田山	円墳
93	56	寺原古墳	* * 宇寺原	
94	239	元新田古墳	* 津村町白木字元新田	
95	260-261	高合古墳群	* * 宇山田他	10基

経塚・中世墓・城跡

国中 番号	市町 番号	遺跡名	所在地	時代
96	5	穴六山経塚	成会町大野字穴六山	
97	379	平内山中世墓	玉城町宮古字平内山	平安～鎌倉
98	129	岩出城跡	* 岩出字城・古城 他	中世
99	128	山岡城跡	* 山岡字村内	中世
100	214	田丸城跡	* 田丸字城跡	中世～近世
101	172	寺山城跡	伊勢市上地町字上通	室町以降



第5図 遺跡地形図 (1 : 5,000)

Ⅲ. 度会郡玉城町岩出 蚊山遺跡・所り垣地区 (16)

1. はじめに

蚊山遺跡所り垣地区は、宮川左岸の低位段丘面に立地し、標高約16m前後である。行政区画上は度会郡玉城町岩出字所り垣・塚名に所在し、現況は付近一帯水田および畑地である。調査区の西には県道伊勢・大宮線が走り、これより西側が蚊山遺跡左郡地区となる。広大な蚊山遺跡の一部であり、試掘調査

の段階で隣接する左郡地区とともに中世の良好な包含層が確認された。調査を進める段階で旧石器時代のものと思われるチャート剥片が検出されたため、中世の遺構面の調査を終了した後、下層の調査を実施した。

2. 遺 構

調査区は、ほぼ東西に横切る農道を境にして、北側をB地区、南側をA地区とした。B地区はほぼ前面が、A地区は東半分が開墾により削平されており、盛土などにより土層が攪乱を受けていた。

層序は、基本的には4層からなる。第Ⅰ層は黒褐色砂質土の耕作土で、一部には灰褐色粘質土の床土が認められる。層厚は約20cm。第Ⅱ層は、暗褐色砂質土で層厚は20～50cm、第Ⅲ層は黒色土(黒ボク質)で、層厚は25～50cm、第Ⅳ層は明黄褐色砂質土である。このうち中世の遺物包含層は第Ⅱ・Ⅲ層で、第

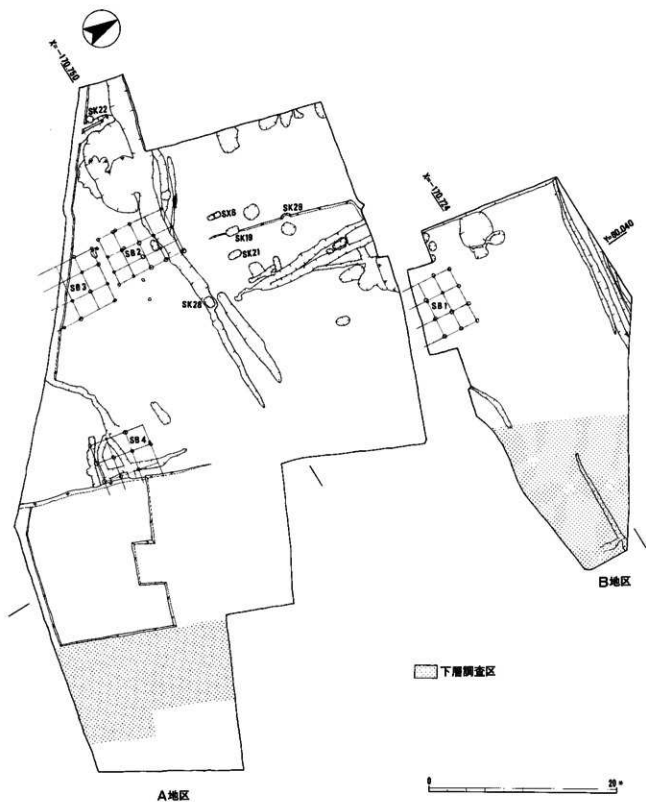
Ⅳ層(B地区は第Ⅴ層)が、旧石器時代の遺物包含層である。第Ⅱ層と第Ⅲ層は調査区の全域には認められない。中世の遺構検出は、第Ⅳ層の上面で行った。

検出された主な遺構は、掘立柱建物4棟、中世墓1基、土坑29基、溝23条である。ほとんどの遺構は、A地区から検出されたもので、全面が削平されていたB地区から検出された遺構は少なかった。

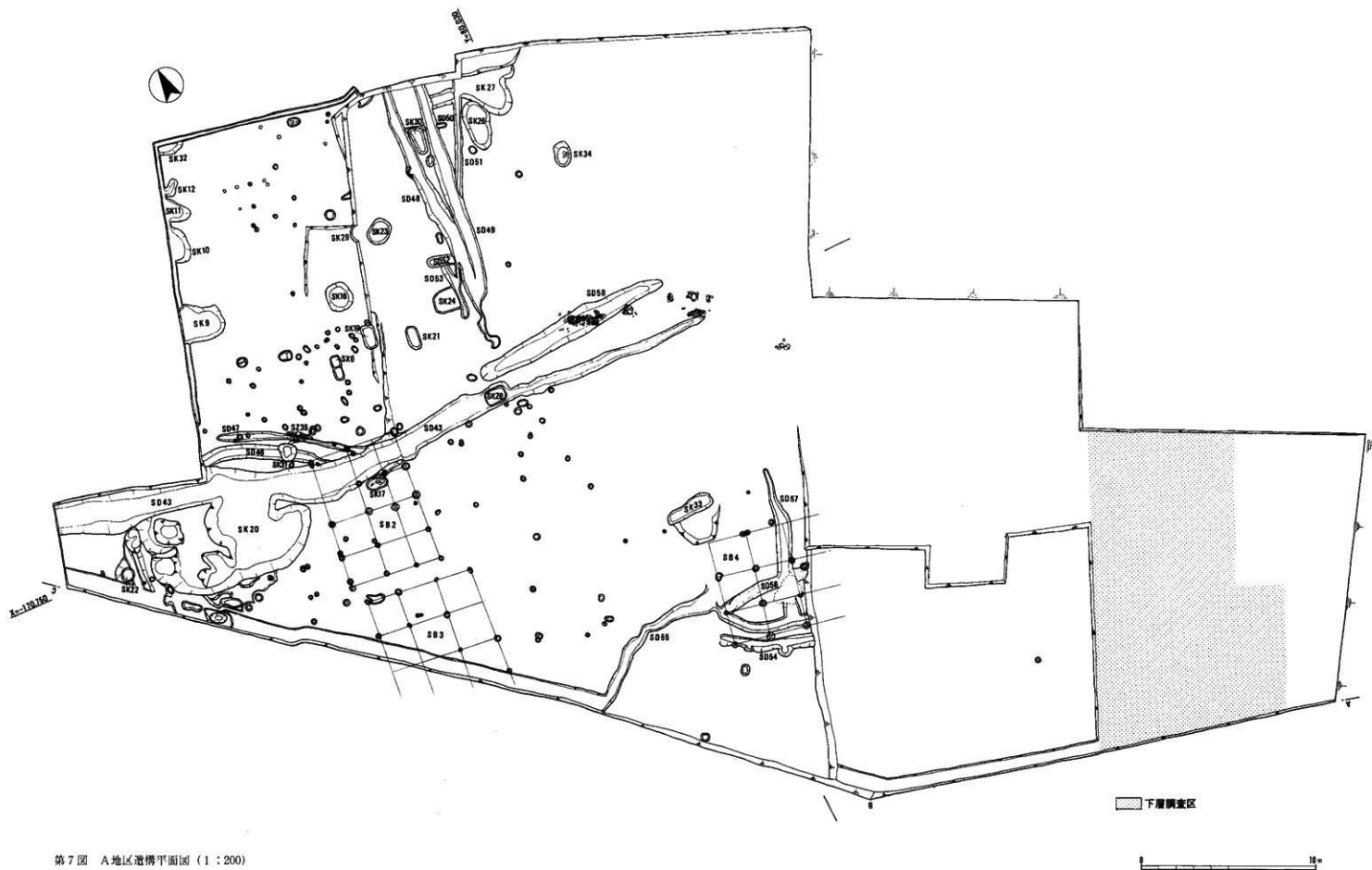
以下、検出された遺構について、A・B地区まとめて述べる。

建物 S B	規模 (間)	棟方向	桁行 (m)	梁行 (m)	柱間寸法 (m)		時 期	備 考
					桁 行	梁 行		
1	3×2	N80°W	6.3	3.6	2.0+2.2+2.1	1.8	鎌倉前半?	総柱建物
2	4×3	N 8°W	7.45	5.15	2.0+1.75+2.0+1.7	1.3+1.7+2.15	鎌倉前半	総柱建物 根石を持つ
3	3×3	N 5°E	6.2	6.25	2.1+2.1+2.0	2.1+2.3+1.85	鎌倉前半	総柱建物 根石を持つ
4	3×2	N10°E	5.85	4.30	2.0+2.05+1.8	2.15	鎌倉前半?	総柱建物

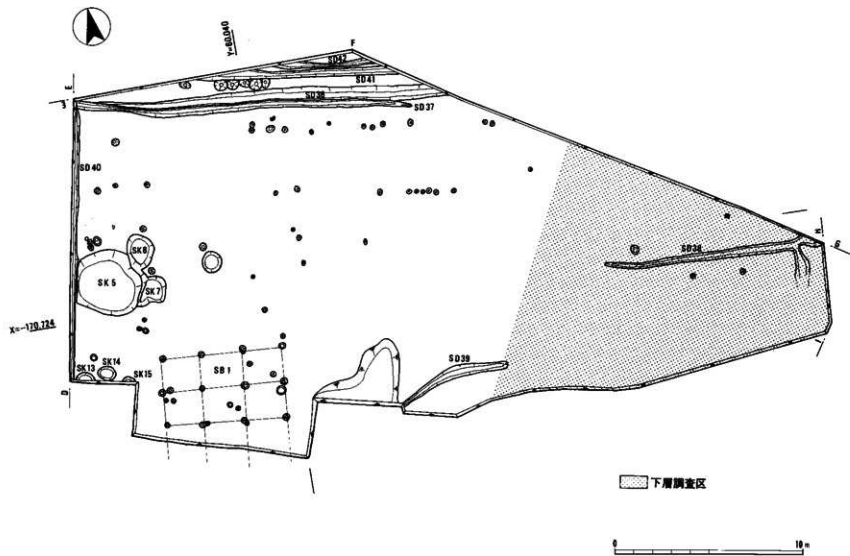
第4表 掘立柱建物一覧



第6图 遺構配置図(1:400)

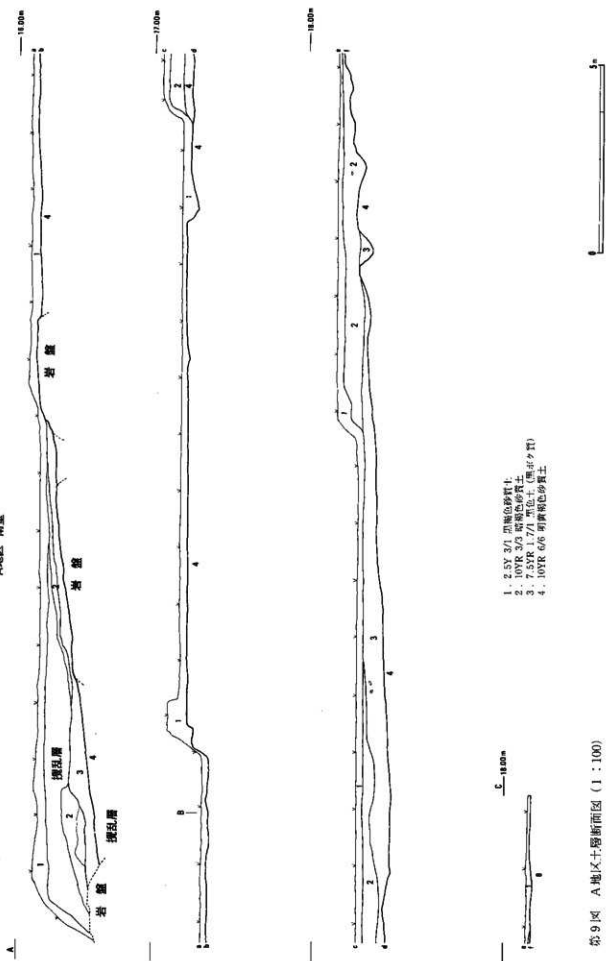


第7图 A地区遺構平面図(1:200)



第 8 区 B 地区遺構平面図 (1 : 200)

A地区—南壁



1. 2.5Y 3/1 暗棕灰砂粘土
2. 10YR 3/3 暗棕砂质土
3. 7.5YR 1.7/1 暗棕色土 (暗棕色土)
4. 10YR 6/6 暗黄棕砂质土

第9图 A地区土層断面图 (1:100)

B地区一西壁



1. 10YR 5/2 灰赤褐色粘質土
2. 10YR 6/4 にふい黄褐色砂質土に10YR 5/2 灰赤褐色砂質土が混る。
3. 10YR 6/4 褐色粘質土
4. 10YR 4/6 褐色粘質土に10YR 1.7/1 黒色粘質土が混る。
5. 10YR 2/1 黒色粘質土
6. 2.5Y 6/6 明灰褐色砂質土

B地区一北壁



1. 10YR 5/2 灰赤褐色粘質土
2. 10YR 6/4 にふい黄褐色砂質土に10YR 5/2 灰赤褐色砂質土が混る。
3. 10YR 4/6 褐色粘質土に10YR 1.7/1 黒色粘質土が混る。
4. 2.5Y 6/6 明灰褐色砂質土
5. 10YR 2/1 黒色粘質土
6. 10YR 2/3 暗褐色砂質土に10YR 5/6 黄褐色砂質土が混る。
7. 10YR 2/3 暗褐色粘質土
8. 10YR 2/3 暗褐色砂質土に10YR 5/6 黄褐色砂質土が混る。
9. 10YR 2/2 黒色粘質土
10. 10YR 2/1 黒色粘質土

B地区一東壁

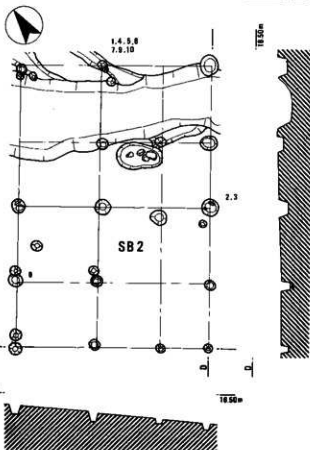
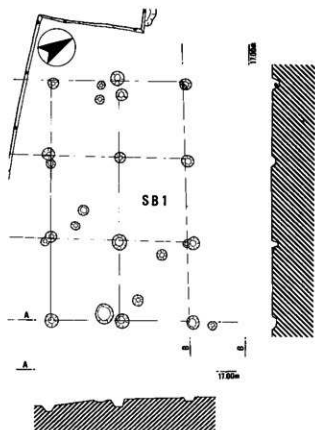


1. 10YR 5/2 灰赤褐色粘質土
2. 10YR 4/6 褐色粘質土に 10YR 1.7/1 黒色粘質土が混る。
3. 7.5YR 3/4 暗褐色粘質土
4. 2.5Y 6/6 明灰褐色砂質土
5. 2.5Y 4/2 暗灰褐色砂質土
(層下の層が泥人)

下層調査範囲



第10図 B地区土層断面図 (1:100)



第11図 SB1・2実測図(1:100)
〔图中の数字は柱掘形出土の遺物番号〕

(1) 平安時代末葉の遺構

A. 中世墓

SX6 A地区の西端近くで検出された長軸1.2m、短軸0.8mの隅丸方形の土坑で、深さは検出面より15cmである。埋土は黒褐色土で、埋土中から完形の土師器小皿(17~20)、山茶碗(21)、刀子(22)が出土した。

B. 土坑

SK16 A地区、SX6の北東2.6mに位置する径1.6mの円形の土坑で、深さは検出面より1.0mである。埋土は黒褐色土で、埋土中から土師器鍋(33)陶器甕(34)、土師器片が少量出土した。

SK18 SB3の北東端の柱掘形に切られる形で検出された、長軸1.0m、短軸0.5mの不定形な土坑で、深さは検出面より10cmである。埋土は黒色土で、埋土中からロクロ土師器杯(35)、土師器小皿(36)・皿(37)が出土した。

C. 溝

SD45 SD44の東に並行して走る短い溝でSK20に切られる形で検出された。幅60cm、深さは、検出面より20cmで、南端は調査区外にのびている。埋土中から土師器皿(72)が出土した。

(2) 鎌倉時代前半の遺構

A. 掘立柱建物

SB2 桁行4間(7.45m)×梁行3間(5.15m)、棟方向がN8°Wの南北棟の総柱建物で、柱間寸法は桁行が2.0m+1.75m+2.0m+1.7mで梁行が1.3m+1.7m+2.15mと不揃いである。柱掘形は、径20~50cmの円形である。柱掘形内に扁平な石が残るものが1箇所ある。柱掘形から土師器小皿(1~6)・皿(7~10)、山茶碗片、青磁片、石鍋片が出土した。

SB3 南西部分が調査区外のため、桁行3間(6.2m)×梁行3間(6.25m)分が確認できた。棟方向N5°Eの南北棟の総柱建物と思われ、柱間寸法は桁行が2.1m+2.1m+2.0mで、さらに調査区外(南)にのびる可能性もある。梁行は2.1m+2.3m+1.85mである。柱掘形は、径20~40cmの円形で、柱掘形内に根石が残るものが4箇所、柱掘形が検出

できず根石のみを検出したものが1箇所あった。また、北側3mの位置に東西に並ぶピットは、構列の可能性もある。柱掘形から土師器小皿(11)・皿(12)、山皿(13)、鉄釘(131)、瓦片が出土した。

B. 土坑

S K 24 S K 21の東1.5mに位置する。長軸1.7m以上、短軸1.3mの隅丸の方形土坑と思われる。東端がS D 58に切られている。深さは、検出面より15cmである。埋土は暗褐色土で、埋土中から土師器鍋(45)、山茶碗(46・47)が出土した。

S K 31 S X 6の南西5mに位置し、S D 53の上で検出された長軸1.2m、短軸1.0mのやや歪んだ円形の土坑である。埋土中から、土師器皿(50・51)や小皿の細片、山皿片が出土した。

C. 溝

S D 52 S D 53を切り、S D 48に切られる形で検出された短い溝で、幅50m、深さは検出面から10cm前後である。埋土は黒色土で、埋土中から土師器皿(80)が出土した。

(3) 鎌倉時代後半の遺構

A. 土坑

S K 5 B地区西端中央部で検出された径約3.6mのほぼ円形の土坑である。検出面より50~60cmで、湧水がみられた。埋土は暗褐色土で、埋土中より土師器小皿(23)・皿(24・25)、山茶碗(26・27)土師器片、陶器片、瓦片などが出土した。

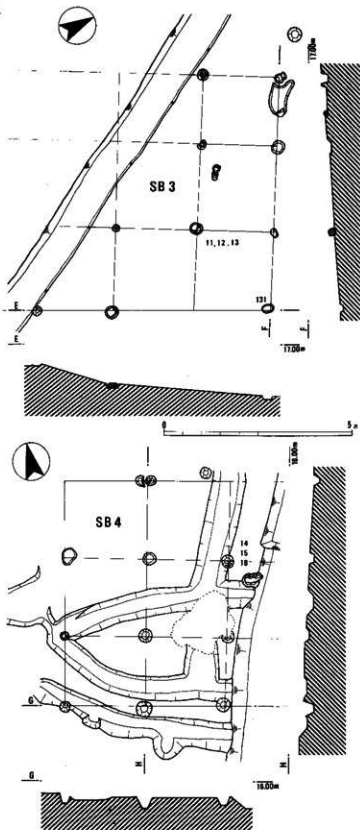
S K 9 A地区西端、S X 6の北西約3mに位置する。長軸2.4m以上、短軸2.0mの楕円形の土坑と思われる。深さは検出面より30cmである。埋土は黒色土で、埋土中から土師器小皿(28)・皿(29)、山皿(30)、山茶碗(31)、鉄釘(132)土師器片、山茶碗片、青磁片などが出土した。

S K 21 S K 19の南東2mに位置する長軸1.4m、短軸0.7mの隅丸方形の土坑で、深さは検出面より10cmである。埋土は暗褐色土で、埋土中から土師器皿(38)が出土した。

S K 28 A地区の中央部やや西より、S D 50の検出後、その底面において検出された長軸1.2m、短軸0.9mの隅丸方形の土坑である。埋土は暗褐色土で埋土中から、ほぼ完形の土師器皿(49)や

土師器鍋の細片が少量出土した。

S K 29 S K 23のすぐ西に位置する。東半分が削平



第12図 SB3・4実測図(1:100)
〔图中的数字は柱掘形出土の遺物番号〕

を受けているが、径1.0mの円形の土坑と思われる。深さは検出面より50cmで、埋土は黒色土である。埋土中から陶器小壺(48)が出土した。

(4) 室町時代前半の遺構

A. 土坑

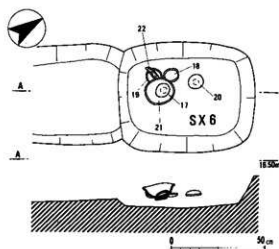
S K 13 B地区の南西端で検出された。長軸1.0m以上、短軸0.4mの楕円形の土坑と思われる。深さは検出面より25cmである。埋土は暗褐色土で、埋土中から土師器鍋(32)、土師器皿の細片、山茶碗片、瓦片などが出土した。

S K 22 A地区の南西端、S K 20の西に近接して検出された。径0.8mの円形の土坑で、深さは検出面より10cmである。埋土は黒褐色土で、埋土中から土師器小皿(39~42)・皿(43)・鍋(44)や土師器の細片が多量に出土した。

B. 溝

S D 40 B地区の西端に南北に延びる溝で、溝の西側と北北端が調査区外のため検出できなかった。幅15cm、深さは検出面より25~40cmである。埋土中から、土師器皿(53)や土師器、山茶碗の細片、瓦片などが出土した。

S D 43 A地区の西端から東に延び、中央部やや東よりで途切れる調査区内で最も規模の大きな溝である。幅0.5~2.5m、深さは検出面より0.2~1.0mである。埋土中から土師器小皿(54・55)・皿(56~64)・鍋(65・66)、山茶碗(67~70)、陶器練鉢(71)青磁片、砥石片などが出土した。



第13図 SX 6実測図(1:20)

S D 48 A地区北端の中央部から南に延びる溝で、S D 49を切る形で検出された。幅0.4~1.2m、深さは、検出面より20~40cmである。埋土中から土師器鍋(73)や土師器片、山茶碗片、青磁片などが出土した。

S D 49 S D 48の東に、ほぼ並行して南北に延びる溝で南端をS D 48に切られている。幅0.5~1.0m、深さは検出面より20~40cmである。埋土中から土師器小皿(74)・皿(75~78)、山茶碗(79)、土師器鍋の細片が出土した。

S D 58 A地区中央部やや北より、S K 28のすぐ北からS D 43に、ほぼ並行して東に延びる溝で、幅1.0~1.6m、深さは検出面より15~20cmである。埋土は黒色土で、埋土中から、土師器皿(81)、山茶碗片、青磁片が出土した。

(5) 時期不明の遺構

A. 掘立柱建物

S B 1 桁行3間(6.3m)×梁行2間(3.6m)、棟方向がN80°Wの東西棟の総柱建物と思われる。柱間寸法は、桁行が2.0+2.2+2.1m、梁行が1.8m等間でさらに調査区外にのびる可能性がある。柱掘形は、径20~40cmの円形である。出土遺物はなかった。

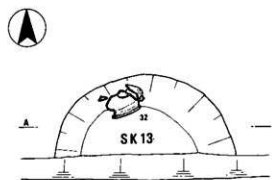
S B 4 桁行3間(5.85m)×梁行2間(4.30m)棟方向がN10°Eの南北棟の総柱建物と思われる。柱間寸法は、桁行が2.0m+2.05m+1.8m、梁行が2.15mの等間で、さらに東にのびる可能性がある。柱掘形は、径20~40cmの円形である。柱掘形から土鐘(14~16)が出土した。

B. 土坑

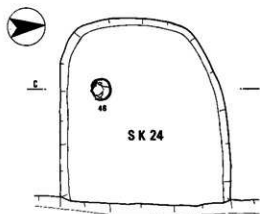
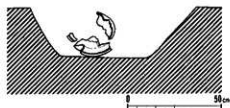
S K 10 S K 9の北2.4mに位置する。長軸2.2m以上、短軸0.9mの楕円形の土坑と思われる。深さは検出面より20cmである。埋土は黒色土で、埋土中から土師器片が少量出土した。

S K 11 S K 10の北に隣接して検出された。長軸1.6m以上、短軸1.4mの楕円形の土坑と思われる。深さは検出面より30cmである。埋土は黒色土で、埋土中から陶器片が1片のみ出土した。

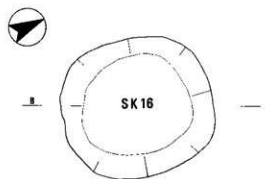
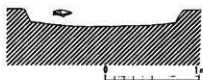
S K 14 S K 13の東0.3mに位置する長軸1.0m、短軸0.8mの楕円形の土坑で、深さは検出面より30cmである。埋土は暗褐色土で、埋土中から土師器皿片・



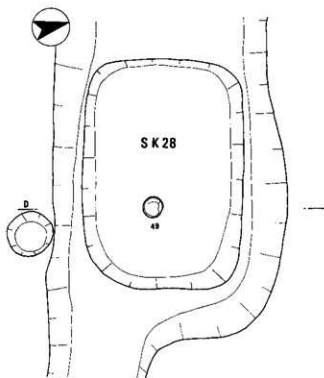
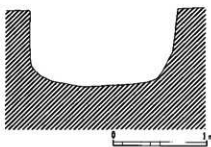
A. 1:80m



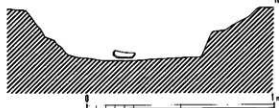
C. 1:40m



B. 1:20m



D. 1:40m



第14河 SK 13·16·24·28实测图 (SK 13·28 1:20, SK 16·24 1:40)

鍋片などが少量出土した。

S K 15 S K 14の東0.4mに位置する。長軸70cm以上、短軸30cmの楕円形の土坑と思われる。深さは検出面より20cmである。埋土は暗褐色土で、埋土中から土師器片が微量出土した。

S K 19 S X 6の北東2mに位置する長軸1.4m、短軸0.7mの隅丸方形の土坑で、深さは検出面より65cmである。埋土は黒褐色土で、埋土中から土師器皿・鍋の細片が出土した。

S K 20 A地区の南西部でS D 50に切られる形で検出された長軸9.0m、短軸5.0mの歪んだ楕円形の土坑で、深さは検出面より45~85cmである。埋土は暗褐色土で、埋土中から土師器小皿・皿の細片が少量出土した。他に、高杯の柱状部や瓦片が各1点出土した。

S K 30 A地区の北端中央部付近に位置する。S D 57を切る形で検出された長軸1.6m以上、短軸0.7mの楕円形の土坑である。深さは検出面より25cmである。埋土は黒褐色土で、埋土中から土師器の細片が出土した。

S K 32 A地区の西北端に位置する。長軸1.5m以上、短軸0.6m以上の楕円形の土坑と思われる。深さは検出面より20cmで、埋土は暗褐色土である。埋土中から鉄鍋(52)、土師器片、山茶碗片が出土した。

C. 集石

S Z 35 S D 47の上面で検出した集石で、長軸1.5m、短軸0.8mで、平面形はY字形を呈する、10~30cm大の河原石が集められたような状態で検出されたが、遺構とすべきかどうかは断定できない。下部に掘形は検出できなかったが、土師器、山茶碗、陶器の小片が出土した。

D. 溝

S D 36 B地区の北西部から東に延びる細い溝で、北西端をS D 37に切られ、東端は調査区外に延びる。幅20~70cm、深さは検出面より10cm程度と浅い。埋土は黒色土に明褐色土が混じる。埋土中から土師器の細片、山茶碗片などが出土した。

S D 37 B地区の北西端からS D 36にそって東に延びる細い溝である。B地区北壁の3m手前で途切れる。幅20~40cm、深さは4~20cmである。埋土は暗褐色土に明褐色土が混じる。埋土中から土師器片、山茶碗片、陶磁器片が少量出土した。

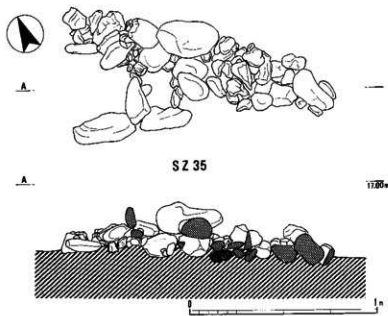
S D 38 B地区の東部にあり、東西にのびる細い溝である。東端は調査区外にのびている。幅20~60cm、深さは検出面より15cmである。埋土は暗褐色土で、埋土中から土師器片が微量出土した。

S D 44 A地区の南西端、S K 20の北に隣接しS D 43に直交する形で検出された。幅50~90cm、深さは検出面より10cmで、南端は調査区外に延び一部をS K 22に切られている。埋土は暗褐色土で、埋土中から土師器皿・鍋の細片、青磁片、陶器片、鉄釘(133)などが出土した。

S D 46 A地区の南西部からS D 47に並行して東に延び、その東端がS D 49に切られる形で検出された。幅40~80cm、深さは検出面より20cmである。埋土中から土師器小皿・皿・鍋の細片が少量出土した。

S D 53 S D 51、52に両端を切られる形で検出された。幅40cm、深さは検出面より5cm前後の浅く、短い溝である。埋土は黒褐色土で、埋土中から土師器皿の細片が微量出土した。

S D 54 A地区の中央部南より、S B 4の南辺を東西に延びる幅50~80cm、検出面からの深さが、20cm前後の短い溝である。埋土中から土師器片、陶器片が微量出土した。



第15図 S Z 35実測図(1:20)

以上の遺構の他、出土遺物がなく、性格不明の土坑

を10基、溝を9条検出した。

3. 遺物

遺物は、整理箱に60箱程度出土した。平安時代末葉から室町時代前半までの土器を中心として、石製品、瓦、鉄製品などがある。その中でも出土量の多かったものは、鎌倉時代の土師器、山茶碗である。

(1) 平安時代末葉の遺物

A. S B 2 出土の土器

土師器小皿 (1~3) いずれも器壁は厚く、底部に丸みを持つ。

B. S X 6 出土の遺物

土師器小皿 (17~20) いずれも完形である。

山茶碗 (21) 口縁部の外反が強く、体部に丸みを持つ。口縁部の3方向に輪花がみられ、灰釉漬け掛けが、口縁部から体部にかけて施されている。「二」の墨書が、体部外面に2箇所、底部外面に1箇所みられる。藤澤編年のⅡ段階4型式^①に相当するものであろう。

刀子 (22) 残存状態は良好で木質が基部に付着している。残存長11.0cmである。

C. S K 16 出土の土器

土師器鍋 (33) 口縁部は短く外反する。口縁端部は丸く肥厚し、内側に折り返しが認められる。

陶器壺 (34) 口縁部のみ3分の1残存している。常滑産と思われる。

D. S K 18 出土の土器

土師器杯 (35) ロクロ土師器である。

土師器小皿 (36) ・皿 (37) いずれも底部に丸みを持ち、器壁が厚い。

E. S D 45 出土の土器

土師器皿 (72) 口縁端部が外反し、器壁が厚い。

F. 包含層出土の土器

土師器小皿 (82~85) 口径にばらつきがあるが、いずれも底部に丸みを持ち、口縁端部は丸く器壁は厚い。

土師器皿 (87~89) 口径にばらつきはあるが、いずれも底部に丸みを持ち、器壁は厚い。

土師器杯 (96) ロクロ土師器である。

土師器碗 (97) ロクロ土師器である。Ⅲ層上面で伏せた状態で出土した。ほぼ完形である。

皿 (105・106) 藤澤編年のⅡ段階4型式に相当するものであろう。

山茶碗 (112) 口縁部から体部にかけて内外面に灰釉漬け掛け。藤澤編年のⅡ段階4型式に相当するものであろう。

(2) 鎌倉時代前半の遺物

A. S B 2 出土の土器

土師器小皿 (4~6) 4・6は、いずれも器壁が厚い。5は、4・6に比べ器壁がやや薄く、底部に丸みを持つ。

土師器皿 (7~10) いずれも口縁部が強くヨコナデされ、器壁は厚い。

B. S B 3 出土の遺物

土師器小皿 (11) ・皿 (12) いずれも口縁部が強くヨコナデされ、口縁端部は丸くおさまる。

皿 (13) 底部外面に糸切り痕が残り、内面に自然軸が付着。

鉄釘 (131) S B 3の北東隅のピットより出土した。残存長3.8cmで、先端部が欠失している。

C. S K 5 出土の土器

土師器皿 (24) 口縁部が弱く内彎し、口縁端部は丸くおさまる。外面に粘土紐接合痕が残る。

D. S K 9 出土の遺物

土師器小皿 (28) 器壁が厚く、口縁端部はとがりぎみである。外面に粘土紐接合痕が残る。

土師器皿 (29) 口縁部が、やや内彎し口縁端部は先細りぎみである。

皿 (30) 底部外面に糸切り痕が残る。

鉄釘 (132) 残存長6.2cm、先端部が欠失している。

E. S K 24 出土の土器

土師器鍋 (45) 口縁部のみ残存する。新田編年の5類^②、伊藤編年の第1段階^③にあたる。

山茶碗 (46) 口縁部を上にした状態で出土した。体部は直線的で、口縁部はわずかに外反する。

F. SK31出土の土器

土師器皿 (50・51) いずれも口縁部に強いヨコナデが施され、器壁は厚い。

G. SD43出土の土器

土師器小皿 (54・55) 法量・器形ともに異なるが、いずれも器壁が厚く胎土も類似している。55は、内面に布目痕が残る。

土師器皿 (56・57) いずれも口縁部に強いヨコナデが施され、器壁は厚い。

山茶碗 (70) 体部は直線的で、口縁部がわずかに外反する。

H. SD52出土の土器

土師器皿 (80) 口縁部に強いヨコナデが施され器壁が厚い。

I. 包含層出土の土器

土師器皿 (90～92) (90) は、体部から口縁部にかけて直線的で口縁端部がやや尖りぎみであり、器壁は厚い。(91・92) は、いずれも弱く内彎し器壁は厚い。

土師器鍋 (99～102) いずれも新田福年の5類、伊藤福年の第1段階にあたる。

山皿 (107) 底部外面に糸切り痕が残る。藤澤福年のⅢ段階5型式に相当するものであろう。

山茶碗 (113～116) (113) は、体部に丸みを持ち、口縁部が外反する。(114) は、口縁部に自然釉が掛かり、内面底部に重ね積み焼成痕が残る。体部は直線的で口縁部が少し外反する。(115) は、体部が直線的で口縁部が外反している。高台端部に初殺痕が残る。(116) は、体部が直線的で、口縁部は少し外反している。高台端部に初殺痕が残る。いずれも藤澤福年のⅢ段階5型式に相当するものであろう。

青磁皿 (117・118) 河安窯系青磁皿である。

青磁碗 (119・120) 龍泉窯系青磁碗である。

(3) 鎌倉時代後半の土器

A. SK5出土の土器

土師器小皿 (23) 器壁が薄く、口縁端部は細くなる。

土師器皿 (25) 器壁が薄く、口縁端部は細くなる。直線的に斜め上方に立ち上がる口縁部を持つ。

B. SK21出土の土器

土師器皿 (38) 口縁部が強く内彎し、口縁端部は尖っている。器壁は薄い。

C. SK28出土の土器

土師器皿 (49) ほほは完形で、口縁部を上にした状態で出土した。口縁部が内彎し、底部は平底である。粘土粗接合痕が残る。

D. SK29出土の土器

鉄軸小壺 (48) 黒茶色の光沢ある釉が、底部を除いてほぼ全面にかかる茶入れである。瀬戸産であろうと思われる。

E. 包含層出土の土器

土師器皿 (93) 口縁部は内彎ぎみに立ち上がり口縁端部は丸くおさまる。

(4) 鎌倉時代の土器

A. SK5出土の土器

山茶碗 (26・27) いずれも底部のみ残る。

B. SK9出土の土器

山茶碗 (31) 体部を高台部周辺にそって打ち欠いた痕跡が認められる。

C. SK24出土の土器

山茶碗 (47) 体部下半にやや丸みをもつ。

D. SD43出土の土器

山茶碗 (67～69) (67) は、高台部の胎土が異なる。

陶器練鉢 (71)

E. SD49出土の土器

山茶碗 (79)

F. 包含層出土の土器

山茶碗 (108～111) (110) は、底部外面に「木」の墨書が記されている。(111) の底部外面にも墨書が記されている。底部が完存でないため判読できないが、「ほ」、「促」、「注」、「住」の可能性はある。

(5) 室町時代前半の土器

A. SK13出土の土器

土師器鍋 (32) 体部より外反してのびる口縁部は比較的長く、内外面ともヨコナデされる。端部は折り返され、ヨコナデされる。体部外面にはハケメが横方向に施されている。体部外面の下半には帯状に幅の狭いヘラケズリが施される。

B. SK22出土の土器

土師器小皿 (39-42) いずれも口縁部を上にした状態で出土した。(39)は完形、(40)はほぼ完形で、内外面に油煙痕が付着している。法量にばらつきがあるが、器壁はいずれも薄い。

土師器皿 (43) 口縁部を上にした状態で出土した。口縁部は内彎し、直角に近い立ち上がりをする。器壁は非常に薄い。

土師器鍋 (44) 体部より外反してのびる口縁部は、内外面ともヨコナデされる。口縁部は折り返され、体部外面にハケメが横方向に施される。

C. S D40出土の土器

土師器皿 (53) 口縁部は内彎し、直角に近い立ち上がりをする。器壁は非常に薄い。

D. S D43出土の土器

土師器皿 (58-64) いずれも、口縁部は内彎し、直角に近い立ち上がりをする。器壁は非常に薄い。

土師器鍋 (65) 口縁部のみ残存。内外面ヨコナデされ、口縁部は折り返されるが、それは小さい。

土師器鍋 (66) 体部から「く」の字状にのびる口縁部は、内外面ともにヨコナデされ、やや内彎する。頸部内面に稜線が見られる。口縁部は折り返され強いヨコナデが施される。体部外面に、ハケメが横方向に、体部下半にはヘラケズリが施される。

E. S D48出土の土器

土師器鍋 (73) 口縁部のみ残存する。口縁部は折り返され、強いヨコナデが施される。

F. S D49出土の土器

土師器小皿 (74) 器壁が薄く、口縁部は尖る。

土師器皿 (75-78) 口縁部が内彎し、直角に近い立ち上がりをする。器壁は、非常に薄い。

G. S D58出土の土器

土師器皿 (81) 口縁部が内彎し、直角に近い立ち上がりをする。器壁は非常に薄い。

H. 包含層出土の土器

土師器皿 (94-95) いずれも口縁部が内彎し、直角に立ち上がりをする。器壁は非常に薄い。

陶器合子 (121) 瀬戸産であろうと思われる。

(6) その他の中世の遺物

A. S B 4 出土の土製品

土鐘 (14-16) S B 4 の東側の柱穴列の北から

2番目の柱掘形から出土した。(14)は、残存長6.3cm、最大径3.0cmでほぼ完形である。(15)は、残存長5.4cm、最大径2.5cmで両端が欠失している。(16)は、残存長5.2cm、最大径2.7cmで先端部が欠失している。

B. S D44出土の鉄製品

鉄釘 (133) 残存長6.3cm、先端部が欠失している。

C. ビット出土の鉄製品

鉄釘 (134) 残存長6.5cm、先端部、頭部が欠失している。

D. S K32出土の鉄製品

鉄鍋 (52) 腐食によりもろくなっており、残存状態は良くなかった。時期は異なるが、愛知県公文遺跡で出土した土師器⁵に器形が類似している。

E. 包含層出土の土器

土師器小皿 (86) 室町時代後半のものと思われる。

土師器羽釜 (103・104) (104)は、ミニチュアで口縁部、胴部上面に沈線が施されている。

土師器火鉢 (123・124) いずれも土師質であるが、瓦器火鉢を模倣したものである。瓦器火鉢が火を受けて土師質になったものとも考えられる。

陶器卸し皿 (125) 室町時代のものと思われる。

F. 包含層出土の石製品

砥石 (122) 数点出土した砥石の中で最も残りの良いものである。

G. 包含層出土の鉄製品

小刀 (126・127) (126)は、残存長31.4cm、切先、基部の端部が欠失。(127)は、残存長23.9cm、切先、基部の大半が欠失、ともに目釘孔が認められる。

刀子 (128) 身部の一部が残存、残存長5.8cm。

鉄製利器 (129) 残存長9.8cmである。

鉄製鎌 (130) 残存長34.5cmで身部、基部の一部が欠失。

鉄釘 (135-138) A地区の北東部包含層で方形の4つの頂点に頭部を上に向けた状態で出土した。(135・136)は、それぞれ残存長4.5cm、2.7cmで、いずれも先端部が欠失している。(137・138)は、いずれも身部片のみで、残存長4.5cm、5.2cmである。

標台番号	出土位置	種類(器型)	器形	法量 (cm)		観察事項		色調	胎土	焼成	残存数	備考	実測 No
				口径	器高	底形・調整技法の特徴	観察事項						
1	H12 P5 SB2	土師器	小皿	7.6	1.5	口縁部ヨコナギ、 内面ナギ、外面未調整。	底形 7.5Y R7/6	砂粒含	良好	良好	1/2		070
2	H13 P2 SB2	土師器	小皿	8.6	1.7	口縁部ヨコナギ、 内面ナギ、外面未調整。	底形 10Y R7/3	砂粒含	良好	良好	1/4		067
3	H13 P2 SB2	土師器	小皿	8.6	1.7	口縁部ヨコナギ、 内面ナギ、外面未調整。	底形 7.5Y R8/4	砂粒含 1mm底石	良好	良好	1/4		066
4	H12 P5 SB2	土師器	小皿	8.4	-	口縁部ヨコナギ、 内面ナギ、外面未調整。	底形 7.5Y R8/4	砂粒含	良好	良好	1/4		076
5	H12 P5 SB2	土師器	小皿	8.6	1.1	口縁部ヨコナギ、 内面ナギ、外面未調整。	底形 7.5Y R8/4	砂粒含	良好	良好	1/2		071
6	H12 P5 SB2	土師器	小皿	8.0	1.3	口縁部ヨコナギ、 内面ナギ、外面未調整。	底形 7.5Y R8/4	砂粒含	良好	良好	1/3		073
7	H12 P5 SB2	土師器	皿	13.4	3.3	口縁部ヨコナギ、 内面ナギ、外面未調整。	底形 7.5Y R8/4	砂粒含	良好	良好	1/4		069
8	G12 P3 SB2	土師器	皿	13.0	-	口縁部ヨコナギ、 内面ナギ、外面未調整。	底形 7.5Y R8/4	砂粒含	良好	良好	1/6		088
9	H12 P5 SB2	土師器	皿	15.4	3.4	口縁部ヨコナギ、 内面ナギ、外面未調整。	底形 10Y R8/2	粗砂多含	良好	良好	1/6		075
10	H13 P5 SB2	土師器	皿	15.4	3.3	口縁部ヨコナギ、 内面ナギ、外面未調整。	底形 7.5Y R8/4	砂粒多含	良好	良好	1/6		074
11	F14 P1 SB3	土師器	小皿	9.4	1.6	口縁部ヨコナギ、 内面ナギ、外面未調整。	底形 10Y R8/3	砂粒多含	良好	良好	3/5	口縁部に 加炭灰付着。	079
12	F14 P1 SB3	土師器	皿	14.2	2.8	口縁部ヨコナギ、 内面ナギ、外面未調整。	底形 7.5Y R6/3	砂粒含	良好	良好	4/5	内外面に煤付 着。	087
13	F14 P1 SB3	陶器	山皿	底径: 3.6	(?)	内外縁クロコナギ。 底部外縁糸切部。	底形 2.5Y R71	砂粒含	良好	良好	底面に自然物 剥落痕に付着。		078
14	G13 P6 SB4	土製品	土埴	長さ: 6.3		最大径3.0cm 重さ35.00g 穿口径0.9cm	底形 7.5Y R7/6	粗砂含	良好	良好	底面		080
15	G18 P6 SB4	土製品	土埴	底径: 5.4		最大径2.5cm 重さ29.88g 穿口径1.0cm	底形 10Y R8/4	粗砂含	良好	良好	側面欠		082

表5-1 出土遺物観察表

報告書 番号	出土位置	種類 (器種)	器形	法量 (cm)		観察事項		色面	粘土	焼成	残存度	備考	実測 No.
				口径	器高	成形	調整技法の特徴						
16	G1F P6 SB4	土製品	土罐	残存長: 5.2	最大径: 7cm 穿門径: 7cm	成形	器面ナナ、先端が尖り蓋面門 形を呈す。	浅黄褐色 10Y R8/4	粗砂含	良好	先端部 欠失		081
17	I12 SX6	土師器	小皿	8.6	1.4	成形	口縁部コナナ。 内面ナナ、外面未調整。	にふい黄褐色 10Y R8/3	粗砂含	良好	完形		052
18	I12 SX6	土師器	小皿	8.8	1.4	成形	口縁部コナナ。 内面ナナ、外面未調整。	淡黄 2.5Y R8/3	粗砂含	良好	14F完形		054
19	I12 SX6	土師器	小皿	9.1	1.4	成形	口縁部コナナ。 内面ナナ、外面未調整。	淡黄 2.5Y R8/3	粗砂含	良好	14F完形		053
20	I12 SX6	土師器	小皿	9.2	1.7	成形	口縁部コナナ。 内面ナナ、外面未調整。	にふい黄褐色 10Y R7/3	粗砂含	良好	完形		055
21	I12 SX6	陶器	山茶碗	16.8	6.0	成形	内外面ロクロナナ。 山縁部の三方向に輪花。 葉り付け残存。 成地割付け(三層明)。	粉) 灰白 10Y R7/1 輪) 灰白 7.5Y 8/1	微砂粒含	良好	完形	磨き「二」あ り。高台基部 に粉粒多。	061
22	I12 SX6	鉄製品	刀子	残存長: 11.1		成形	断面・断面二等辺三角形を呈す。			良好		基部に水漬が 残存。	056
23	P31 SK5	土師器	小皿	8.2 (?)	1.1 (?)	成形	内面ナナ。 外面未調整。	淡黄 2.5Y R8/3	砂粒含 1mm 灰石	良好	1/4		059
24	P31 SK5	土師器	皿	14.2 (?)	2.3 (?)	成形	内面ナナ、口縁部コナナ。 外面未調整。	浅黄褐色 10Y R8/3	砂粒含 2mm 灰石	良好	1/5	粘土粒層含 あり。	057
25	P31 SK5	土師器	皿	10.8 (?)	2.4 (?)	成形	口縁部コナナ。 内面ナナ、外面未調整。	淡黄 2.5Y R8/3	砂粒含	良好	1/6		058
26	P31 SK5	陶器	山茶碗	台径: 6.2 (?)		成形	内外面ロクロナナ。 底部外周糸切痕。	灰白 2.5Y R7/1	1~2mm 灰石多含	良好	高台 1/3		061
27	P31 SK5	陶器	山茶碗	台径: 8.4 (?)		成形	内外面ロクロナナ。 底部外周糸切痕。	灰黄 2.5Y R7/2	砂粒含	良好	高台 1/4	高台がいつか りしている。	060
28	J10 SK9	土師器	小皿	6.8	1.2	成形	口縁部コナナ。 内面ナナ、外面未調整。	浅黄褐色 10Y R8/3	砂粒含	良好	4/5	粘土粒層含 あり。	083
29	J10 SK9	土師器	皿	11.8 (?)	2.4 (?)	成形	口縁部コナナ。 内面ナナ、外面未調整。	浅黄褐色 10Y R8/3	砂粒含 雲母含	良好	口縁部 1/5		086
30	J10 SK9	陶器	山皿	8.0 (?)	1.5 (?)	成形	内外面ロクロナナ。 底部外周糸切痕。	灰白 2.5Y R8/1	砂粒含	良好	1/4		085

第5-2表 出土遺物観察表

発掘番号	出土位置	種類 (材質)	器形	法量 (cm)		観察事項		色調	胎土	焼成	残存度	備考	発掘 No.
				口径	器高	成形・調査技法の特徴	観察事項						
31	F 10	陶器	山形鉢	台径: 8.0 (?)	内面口クロナデ。 底部外面糸切痕跡ナクアリ。			灰白 10Y R 7/1	砂粒含	良好	高台 1/4	体部を打ち欠 いた痕跡あり。	084
	S K 9												
32	O 13	土師器	罎	22.5 (?)	口縁部ヨコナデ。内面ナデ。 肩部部ナクエ。胴上半部ハケテ。胴下半部ヘラケナスリ。			淡黄褐色 2.5Y R 6/3	1~2mm 粗砂含	良好	口縁部 2/3 断面1/2	外面全体に黄 付着。	088
	S K 13												
33	K 12	土師器	罎	19.0 (?)	口縁部ヨコナデ。内面直ナデ。 胴上半部部ナクエ。			淡黄褐色 10Y R 6/4	1mm 微砂粒多含	良好	口縁部 1/5		032
	S K 16												
34	K 12	陶器	罎	35.0 (?)	口縁部内外面口クロナデ。			にぶい褐色 7.5Y R 6/3	堅緻	良好	口縁部 1/3		033
	S K 16												
35	F 13	土師器	杯	台径: 6.8 (?)	内外面口クロナデ。 底部外面糸切痕。			淡黄褐色 10Y R 6/3	1mm 微砂粒多含	良好	底部 4/5	口縁部から底 部まで黄付着。	036
	S K 18												
36	F 13	土師器	小皿	8.8 (?)	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ良好。 外面未調整。			明黄褐色 10Y R 6/6	砂粒含	良好	1/4		035
	S K 18												
37	F 13	土師器	皿	16.0 (?)	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ。外面未調整。			灰白 7.5Y R 6/2	粗砂含	軟弱	1/2		034
	S K 18												
38	J 13	土師器	皿	11.0 (?)	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ。外面未調整。			淡黄褐色 7.5Y R 6/3	砂粒含	良好	口縁部 1/5		179
	S K 21												
39	S K 22	土師器	小皿	7.0 (?)	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ。外面未調整。			淡黄褐色 10Y R 6/3	砂粒含	良好	ほぼ完全形		040
	G 9												
40	S K 22	土師器	小皿	7.4 (?)	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ。外面未調整。			灰白 10Y R 8/2	粗砂含	良好	ほぼ完全形		037
	G 9												
41	S K 22	土師器	小皿	7.6 (?)	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ。外面未調整。			灰白 10Y R 8/2	砂粒含	良好	1/2		042
	G 9												
42	S K 22	土師器	小皿	7.6 (?)	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ。外面未調整。			淡黄褐色 10Y R 6/3	粗砂含	良好	1/2		038
	G 9												
43	S K 22	土師器	皿	12.8 (?)	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ。外面未調整。			灰白 10Y R 8/2	粗砂含	良好	1/4		039
	G 9												
44	S K 22	土師器	罎	33.1 (?)	口縁部ヨコナデ。内面ナデ。 肩部ナクエ。底部ハケテ。			灰白 10Y R 6/2	1mm 長粒多含	良好	口縁部 1/10	外周に黄付着	041
	G 9												

第5-3表 出土遺物観察表

報告書 番号	出土位置	器種 (分類)	器形	法量 (cm)		観形・調査技法の特徴	色調	胎土	焼成	残存度	備考	発掘 No.
				口径	器高							
45	J13 SK24	土師器	罎	24.2 (?)	—	口縁部ヨコナデ。	にぶい黄褐色 10Y R7/4	0.5-1mm 長石多含	良好	口縁部 1/10	外面に漆が付 着。	046
46	J13 SK24	陶器	山茶碗	17.3 口径 : 6.8	3.4	内外面ロタロナデ。 底部外面未切痕。	灰白 7.5Y 6/1	5-7mm 小石含	良好	4/5		044
47	J13 SK24	陶器	山茶碗	口径 : 6.4 (?)	—	内外面ロタロナデ。 底部外面未切痕。	灰白 2.5Y 7/1	砂粒含	良好	底部		045
48	K12 SK29	陶器	鉄輪小壺	2.2	4.2	内外面ロタロナデ。 底部外面未切痕。	胎 灰白 5Y7/1 釉 黄褐色 2.5Y R1.5/1	堅硬	良好	完形	内外面鉄輪跡 付。	047
49	I14 SK28	土師器	皿	12.2	2.45	L1縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。	灰白 10Y R8/2	砂粒含	良好	ほぼ完形		050
50	H11 SK31	土師器	皿	14.2 (?)	3.2 (?)	L1縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。	浅黄褐色 10Y R8/3	砂粒含	良好	1/6		048
51	H11 SK31	土師器	皿	14.2 (?)	3.0 (?)	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。	浅黄褐色 7.5Y R8/4	砂粒含 1mm長石	良好	口縁部 1/5		049
52	M10 SK32	鉄製品	鉄 鍋	26 (?)	—	鑄造。	材質：鉄			口縁部 1/5		043
53	O13 SD40	土師器	皿	11.8	2.6	内面ナデ。 外面前縁部僅しく調整不明瞭。	灰白 10Y R8/1	砂粒含 1-2mm 長石	やや軟弱	ほぼ完形		021
54	H12 SD43	土師器	小 皿	7.6	1.0	内面ナデ。 外面未調整。	浅黄褐色 7.5Y R8/4	砂粒含 1-3mm 長石	良好	1/2		002
55	H12 SD43	土師器	小 皿	9.8 (?)	1.4 (?)	内面ナデ。 外面未調整。	にぶい黄 7.5Y R7/4	粗砂含	良好	1/6	内面に漆目痕 あり。	017
56	G11 SD43	土師器	皿	13.3 (?)	3.2 (?)	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。	黄 7.5Y R7/6	砂粒 若干含	良好	1/6		015
57	G11 SD43	土師器	皿	14.0 (?)	2.9 (?)	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。	浅黄褐色 10Y R8/3	粗砂含	やや軟弱	1/6		016
58	H10 SD43	土師器	皿	11.6	2.6	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。	浅黄褐色 10Y R8/3	砂粒 長石含	良好	1/4		007

第5-4表 出土遺物観察表

報告書 番号	出土位置	器類 (器種)	器形	法量 (cm)		観察事項	色調	粘土	焼成	残存度	備考	実測 No.
				口径	器高							
59	H10 SD43	土師器	皿	11.4	2.4	内面ナナテ、 外面割縁のため調整不明。	淡青 2.5YR8/3	1~3mm 長石含	良好	1/3		019
60	H11 SD43	土師器	皿	11.6	2.9	内面ナナテ、 外面割縁のため調整不明。	灰白 10YR8/2	砂粒含	良好	1/2		008
61	H11 SD43	土師器	皿	11.4	2.7	内面ナナテ、 外面割縁のため調整不明。	灰白 10YR8/2	粗砂含	軟弱	ほぼ完形		020
62	H10 SD43	土師器	皿	11.6	2.7	口縁部ヨコナテ、 内面ナナテ、外面本調整。	にぶい黄理 10YR7/4	砂粒含	良好	4/5	外面に灰付着	012
63	H12 SD43	土師器	皿	11.9	2.9	内面ナナテ、 外面本調整。	淡青 10YR8/3	粗砂含	良好	4/5		013
64	H12 SD43	土師器	皿	10.8	2.8	口縁部ヨコナテ、 内面ナナテ、外面本調整。	淡青 10YR8/3	砂粒含	良好	3/4		001
65	I14 SD43	土師器	鍋	23.0 (?)	-	口縁部ヨコナテ、 内面ナナテ、外面本調整。	淡青 10YR8/3	砂粒含、 金部砂含	良好	口縁部 1/8	口縁部灰付着	003
66	H12 SD43	土師器	鍋	28.4	-	口縁部ヨコナテ、 内面ナナテ、外面本調整。 胴部外面上半ハケナメ、 胴部外面下半ハケナズリ。	灰白 10YR8/2	1~2mm 長石砂含	良好	口縁部 1/3 胴部 1/2		009
67	I14 SD43	陶器	山茶碗	口径:7.0 (?)		内面口コナテ、 底部外面赤切り裏。	灰白 2.5Y7/1	砂粒含	良好	底部 1/2	底部と灰白の 粘土が異なる	006
68	H12 SD43	陶器	山茶碗	径:6.8 (?)		内外面口コナテ、 底部外面赤切り裏後ナテ埋し。	灰白 10YR7/1	2~3mm 砂粒含	良好	底部 1/2		018
69	I14 SD43	陶器	山茶碗	口径:7.3		内外面口コナテ、 底部外面赤切り裏後ナテ埋し。	黄灰 2.5Y6/1	粗砂含	良好	底部		014
70	G11 SD43	陶器	山茶碗	口径:4.9 (?)		内外面口コナテ、 底部外面赤切り裏。	灰白 2.5Y7/1	粗砂含	良好	1/2	高台底部に 粗砂含。	011
71	G11 SD43	陶器	鉢鉢	口径:15.0 (?)		内外面口コナテ、 底部外面赤切り裏。	灰白 5Y7/1	粗砂含	良好	底部 1/5	外面に自然焼 付着	010
72	G9 SD45	土師器	皿	14.8	3.4 (?)	口縁部ヨコナテ、 内面ナナテ、外面本調整。	にぶい黄理 10YR7/4	砂粒含	良好	1/6		029

第5-5表 出土器物観察表

報告番号	出土位置	種類 (器種)	器形	法量 (cm)		観察事項	色調	胎土	焼成	残存度	備考	実測 No
				口径	器高							
73	K14 SD48	土師器	罎	33.0	-	口縁部コナナク。	浅黄褐色 10Y R8/4	砂粒含	良好	口縁部 1/10	口縁部外面に 黒片着。	031
74	L14 SD49	土師器	小皿	7.7	1.2	口縁部コナナク。 内面ナク、外面未調整。	灰白 10Y R8/1	砂粒含	良好	完形		025
75	M13 SD49	土師器	皿	11.2 (?)	2.2 (?)	内面ナク。 外周部削平のため断面不明瞭。	灰白 10Y R8/1	砂粒含 1-2mm 長石	やや軟弱	1/4		023
76	L14 SD49	土師器	皿	11.0	2.6	口縁部コナナク。 内面ナク、外面未調整。	灰白 10Y R8/1	粗砂含	良好	4/5		024
77	K14 SD49	土師器	皿	11.8	2.8	口縁部コナナク。 内面ナク、外面未調整。	浅黄褐色 10Y R8/3	砂粒含	やや軟弱	5/6		026
78	M13 SD49	土師器	皿	12.3	2.6	内面ナク。 外周部削平のため断面不明瞭。	灰白 10Y R8/2	1-2mm 長石多含	やや軟弱	2/3		022
79	L13 SD49	陶器	山茶碗	台径：6.8		内外面コナナク。 底部外周部削り面。	灰白 7.5Y R6/1	砂粒含	良好	底部		027
80	K14 SD32	土師器	皿	14.0 (?)	2.6 (?)	口縁部コナナク。 内面ナク、外面未調整。	黄 7.5Y R7/6	砂粒含	良好	1/5		028
81	J15 SD58	土師器	皿	11.6	2.6	口縁部コナナク。 内面ナク、外面未調整。	黄褐色 10Y R7/3	砂粒含	良好	5/6		030
82	F13 新田層	土師器	小皿	8.8 (?)	1.4 (?)	口縁部コナナク。 内面ナク、外面未調整。	浅黄褐色 10Y R8/3	砂粒 若干含	並み	1/2	外面底部に黒 い部分あり。	091
83	F13 新田層	土師器	小皿	9.4	1.8	口縁部コナナク。 内面ナク、外面未調整。	灰白 2.5Y R8/2	1-3mm 粗砂多含	並み	4/5	内面と外面に 黒っぽい部分 あり。	090
84	F14 新田層	土師器	小皿	9.4	1.7	口縁部コナナク。 内面ナク、外面未調整。	浅黄褐色 7.5Y R8/4	砂粒多含	良好	完形	口縁部削平の一 部色違いあり	098
85	F14 新田層	土師器	小皿	9.6 (?)	2.2 (?)	内面ナク。 外周部削平のため断面不明瞭。	灰白 2.5Y R8/2	1-2mm 粗砂多含	やや軟弱	1/2		094
86	F15 名倉層	土師器	小皿	9.6 (?)	1.8 (?)	口縁部コナナク。 内面ナク、外面未調整。	浅黄褐色 10Y R8/4	砂粒含	良好	1/5		127

第5-6表 出土遺物観察表

観内番 番号	出土位置	種類 (群種)	器形	法量 (cm)		成形・調整技法の特徴	色調	胎土	焼成	残存瓦	備考	実録 No
				口径	器高							
87	N17 急倉層	土師器	皿	13.6	3.3	口縁部コナナク。 内面ナガ、外面全調整。	淡黄褐色 10Y R 8/3	砂粘土 粘砂多量	良好	2/3		138
88	F14 第Ⅲ層	土師器	皿	14.8	3.2	口縁部コナナク。 内面ナガ、外面全調整。	淡黄褐色 10Y R 8/3	粗砂多量 3mm小石	並み	2/3	断面に黒い部 分が散在。	099
89	F13 第Ⅲ層	土師器	皿	14.4	3.7	口縁部コナナク。 内面ナガ、外面全調整。	灰白 10Y R 8/2	1~2mm 長石多量	良好	完形	外面は黒い部 内面は黒まで 焼付着。	093
90	G17 急倉層	土師器	皿	13.3 (?)	2.7 (?)	口縁部コナナク。 内面ナガ、外面全調整。	黄 7.5Y R 7/6	砂粘土	良好	1/4		110
91	F13 第Ⅲ層	土師器	皿	14.4 (?)	2.5 (?)	口縁部コナナク。 内面ナガ、外面全調整。	淡黄 2.5Y 8/3	砂粘土	良好	口縁部 1/5		092
92	G17 急倉層	土師器	皿	13.0 (?)	2.5 (?)	口縁部コナナク。 内面ナガ、外面全調整。	灰白 2.5Y 8/2	微砂粘土	良好	1/5		111
93	G13 第Ⅲ層	土師器	皿	13.0	3.1	口縁部コナナク。 内面ナガ、外面全調整。	黄灰色 10Y R 8/2	微砂粘土	良好	2/3		105
94	G13 第Ⅲ層	土師器	皿	12.2	2.4 (?)	内面ナガ。 外面は調整のため調整不明瞭。	灰白 10Y R 8/2	1~2mm 長石多量	やや軟弱	口縁部 1/2		126
95	F14 第Ⅲ層	土師器	皿	11.4 (?)	2.7 (?)	内面ナガ。 外面は調整のため調整不明瞭。	灰白 10Y R 8/2	砂粘土	軟弱	1/5		125
96	F14 第Ⅲ層	土師器	杯	口径: 6.4		内外口縁部コナナク。 底部外面全切り彫。	淡黄褐色 10Y R 8/4	粗砂多量 雲母多量	良好	底部 5/6	口土師器	100
97	F14 第Ⅲ層	土師器	柄	16.4	6.1	内外口縁部コナナク。 底部外面全切り彫。	淡黄褐色 10Y R 8/4	1~2mm 長石多量	良好	ほぼ完形	口土師器	101
98	G9 急倉層	土師器	鍋	21.2 (?)	-	口縁部コナナク。 内面ヤケ後ナガ。 外面は調整のためハナメ、ケズリの範囲不明瞭。	淡黄 (口縁部) 5Y R 8/3 灰白 (側部) 2.5Y 8/2	粗砂多量 長石多量	良好	口縁部 側部 1/4		128
99	G13 第Ⅲ層	土師器	鍋	24.0 (?)	-	口縁部コナナク。 頸部全ヤケ。 頸部内面横方向のヘラナズリ。 頸部外面横方向のヘラナズリ。	におい色 7.5Y R 7/4	粗砂多量	良好	口縁部 1/6 側部 2/3	外面焼付着。	104

第5-7表 出土遺物調査表

碑石番号	出土位置	種類 (器種)	器形	法量 (g)	観察・調整技法の特徴		色調	胎土	焼成	残存度	備考	英漢 No.
					成形	調整技法の特徴						
100	N17 包倉塚	土師器	罎	25.0 (?)	-	口縁部ヨコナデ。 内面オサエ後ヨコナデ。 外面脚部折オサエ。	黄 5YR6/6	1~2mm 粗砂多含	良好	口縁部 1/4 胴部 1/5	外面に盛行着	139
101	F12 第10層	土師器	罎	29.3 (?)	-	口縁部ヨコナデ。内面ナデ。 脚部折ナサエ後ヨコナデ。 外面同上半部ハケス。 内外底脚部下半部ヘラケズリ。	内) にぶい灰褐色 5YR5/2 外) にぶい黄 5YR7/4	粗砂多含	良好	口縁部 1/4 胴部 1/4	顔面に盛行着	089
102	G13 第10層	土師器	罎	17.9 (?)	-	口縁部ヨコナデ。 脚部折ナサエ後ヨコナデ。 胴上半部内面オサエ後ナデ。 胴下半部内面底ナデ。 胴上半部外面底ナデ。 胴下半部外面底ヘラケズリ。	浅黄褐色 10YR8/3	粗砂多含	良好	口縁部 1/6 胴部 2/3	外面胴下半部 に盛行着。	132
103	J12 包倉塚	土師器	羽釜	10.2 (?)	-	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ。 外面オサエ後ナデ。	浅黄褐色 10YR8/3	1~2mm 灰石 金雲母 多含	良好	口縁部 1/8	外面に盛行着	115
104	N16 包倉塚	土師器	羽釜	6.3 (?)	-	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ。 外面オサエ後ナデ。 頸部貼り付行。 口縁部、胴部上面に線状工具: よる沈線あり。	浅黄褐色 10YR8/3	砂粒含	良好	1/5	ミニチュア	177
105	J12 包倉塚	陶器	山皿	8.2	2.5	内外面口クロナデ。 底部外面底ナデり頸部ナデ消シ。 裏り付け残存。	胎) 灰白 7.5Y7/1 輪) オリーブ灰 10YR6/2	砂粒含	良好	口縁部 1/7 底部 2/5	高台肩部に磨 取痕、口縁部 から体部外面 上半に自然熱	135
106	J25 包倉塚	陶器	山皿	8.6 (?)	2.2	内外面口クロナデ。 底部外面底ナデり頸部ナデ消シ。 裏り付け残存。	胎) 灰白 7.5Y7/1 輪) オリーブ灰 5YR6/2	砂粒含	良好	2/3		116
107	G14 第10層	陶器	山皿	8.2	1.8	内外面口クロナデ。 底部外面底ナデり頸部ナデ消シ。	胎) 灰白 5YR6/1 輪) オリーブ灰 7YR6/3	砂粒含	良好	完形		133
108	G13 第10層	陶器	山茶碗	台径: 7.3 (?)		内外面口クロナデ。 底部外面底ナデり頸部ナデ消シ。	灰黄 2.5YR7/2	砂粒含	良好	1/5	高台肩部に 磨取痕あり。	108

第5-8表 出土遺物観察表

報告書 番号	出土位置	種類 (器種)	器形	法量 (cm)		観察事項		色調	断土	残高	残存数	備考	表頭 No
				口径	器高	威形・調整技法の特徴	観察事項						
109	F14 扉田層	陶器	山形瓶	口径: 6.0	台径: 6.0	内外面黒ロクロナデ。 底部外面赤切り痕ナデ消し。 貼り付け高台。	灰黄 2.5Y R 6/2	1-2mm 炭石多含	良好	底部			102
110	J14 急倉層	陶器	山形瓶	口径: 6.6	台径: 6.6	内外黒ロクロナデ。 底部外面赤切り痕ナデ消し。 貼り付け高台。	灰白 2.5Y R 7/1	砂粒多含	良好	底部		高台内に「木」の彫痕あり。	136
111	N16 急倉層	陶器	山形瓶	口径: (?)	台径: (?)	内外黒ロクロナデ。 底部外面赤切り痕ナデ消し。 貼り付け高台。	灰白 2.5Y R 6/1	砂粒多含	良好	底部 1/4			140
112	F14 扉田層	陶器	山形瓶	口径: 17.4 (?)	台径: 6.0	内外黒ロクロナデ。 底部外面赤切り痕後ナデ消し。 貼り付け高台。	輪) 灰白 7.5Y R 6/1 輪) 灰白 10Y R 6/1	1-2mm 炭石多含	良好	口縁部 1/5 底部		口縁部から底部にかけて内外面に灰黄塗行跡付。	097
113	F14 扉田層	陶器	山形瓶	口径: 16.4	台径: 7.6	内外黒ロクロナデ。 底部外面赤切り痕ナデ消し。 貼り付け高台。	灰黄 2.5Y R 7/2	1-2mm 炭石多含	良好	4/5			096
114	G13 扉田層	陶器	山形瓶	口径: 17.0	台径: 5.7	内外黒ロクロナデ。 底部外面赤切り痕ナデ消し。 貼り付け高台。	輪) オリーブ黄 10Y R 6/3 輪) 灰白 10Y R 7/1	1-2mm 炭石多含	良好	ほぼ完形		口縁部に自然磨痕あり。 裏ら磨み地成痕あり。	131
115	N16 急倉層	陶器	山形瓶	口径: 16.0	台径: 5.8	内外黒ロクロナデ。 底部外面赤切り痕ナデ消し。 貼り付け高台。	灰白 10Y R 7/1	0.5-1mm 炭石多含	良好	6/7		高台基部に磨痕あり。	141
116	F14 扉田層	陶器	山形瓶	口径: 17.2 (?)	台径: 4.9 (?)	内外黒ロクロナデ。 底部外面赤切り痕後ナデ消し。	灰白 10Y R 6/1	1-2mm 炭石多含	良好	口縁部 2/5 底部		高台基部に磨痕あり。 口縁部に自然磨痕付着。	095
117	M13 急倉層	青磁	小皿	口径: 5.0 (?)	台径: 3.2??	内外黒ロクロナデ。 底部外面赤切り痕後ナデ消し。 貼り付け高台。	輪) 灰白 5Y 7/1 輪) 灰オリーブ 7.5Y 6/2	堅緻	堅緻	底部 1/3			121
118	F14 扉田層	青磁	小皿	口径: 10.2 (?)	台径: 2.4 (?)	内外黒ロクロナデ。 底部外面赤切り痕後ナデ消し。 貼り付け高台。	新) 灰白 2.5Y 7/1 輪) オリーブ黄 7.5Y 6/2	堅緻	堅緻	1/5			119

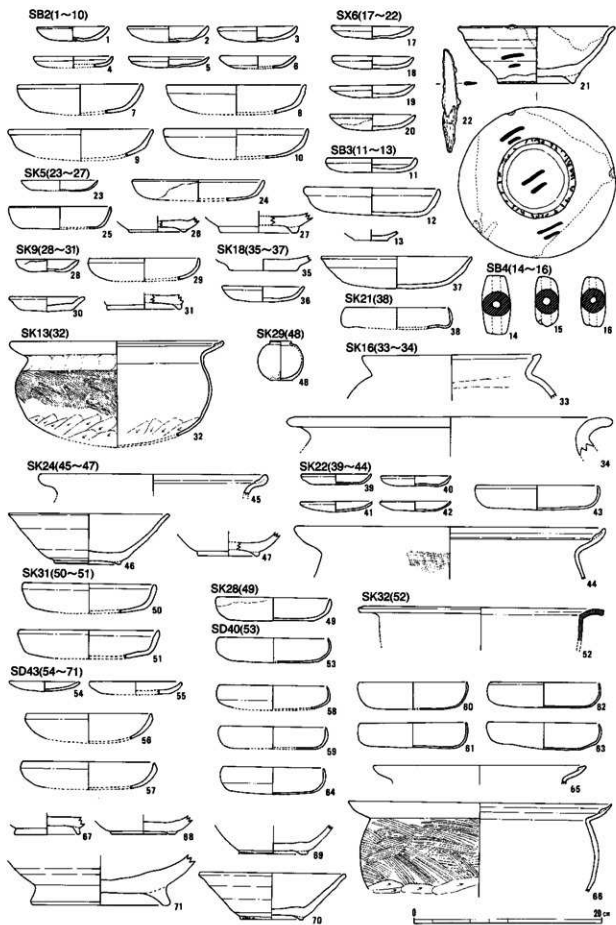
表 5-9 出土遺物観察表

報告書 番号	出土位置 (器種)	種類 (器種)	器形	法量 (cm)		観察事項		色調	粘土	硬度	残存度	備考	実測 No.	
				口径	器高	成形・調整技法の特徴	項目							
119	G12 H12 包含層	青磁	瓶	口径: 13.0 (?)	器高: 5.1	内外面ロクロナガ。 削り出し高台。 内面と外面に施釉。 体部外面に墨井文様。	粉) 灰白 10Y8/1 軸) 明緑青 5GY7/1	藍緑	藍緑	口縁部 1/4 高台 3/4			129	
				口径: 3.9	台径: 3.9									
120	I12 包含層	青磁	瓶	口径: 5.3 (?)	台径: 5.3 (?)	内外面ロクロナガ。 削り出し高台。 内面と外面に施釉。 体部外面に墨井文様。	粉) 灰白 2.5Y7/1 軸) 灰オリーブ 7.5Y5/2	藍緑	藍緑	1/4			113	
121	R13 包含層	陶器	合子	口径: 4.2 (?)	—	内外面ロクロナガ。 口縁部外面に菊花の印花文。 胴部外面に4本の辻織、その下部に墨井の印花文。	粉) 内面: 桃黄緑 7.5YR5/3 外面: 灰白 2.5Y8/3 軸) 灰オリーブ 7.5Y5/2	良好	砂粒含	良好	口縁部 1/9 体部上平 1/8	内面と外面に 灰黄緑施釉。 (外面の軸が 別個)	124	
122	F13 第I層	石製品	砥石	残存長: 8.5 残存厚: 1.4 幅: 5.3	—	材質: 砂岩								178
123	G9 包含層	土師器	火鉢	—	—	内外面サエ磨ナゲ。外面に印花文。 内面ナゲ。	に白い層 7.5Y R7/6		粗砂含	良好	小片			130
124	K17 包含層	土師器	火鉢	—	—	表面前縁のため調整不明感。外面に印花文。	浅黄緑 10YR8/3		粗砂多含	やや軟弱	小片			118
125	M12 包含層	陶器	おろし皿	底径: 8.0 (?)	—	内外面ロクロナガ。 底部外面赤切り傷。 外面に印花文。 内面施釉。	粉) 灰白 5Y8/1 軸) 灰オリーブ 7.5Y6/2		砂粒含		底部 1/4			120
126	G13 包含層	鉄製品	小刀	残存長: 31.4	—	鍛造・断面二等辺三角形を呈す。	材質: 鉄							109
127	N17 包含層	鉄製品	小刀	残存長: 23.9	—	鍛造・断面二等辺三角形を呈す。	材質: 鉄							123
128	K14 包含層	鉄製品	刀子	残存長: 5.8	—	鍛造・断面二等辺三角形を呈す。	材質: 鉄							160
129	F14 包含層	鉄製品	鉄製利器	残存長: 9.8	—	鍛造・断面菱形を呈す。	材質: 鉄							150

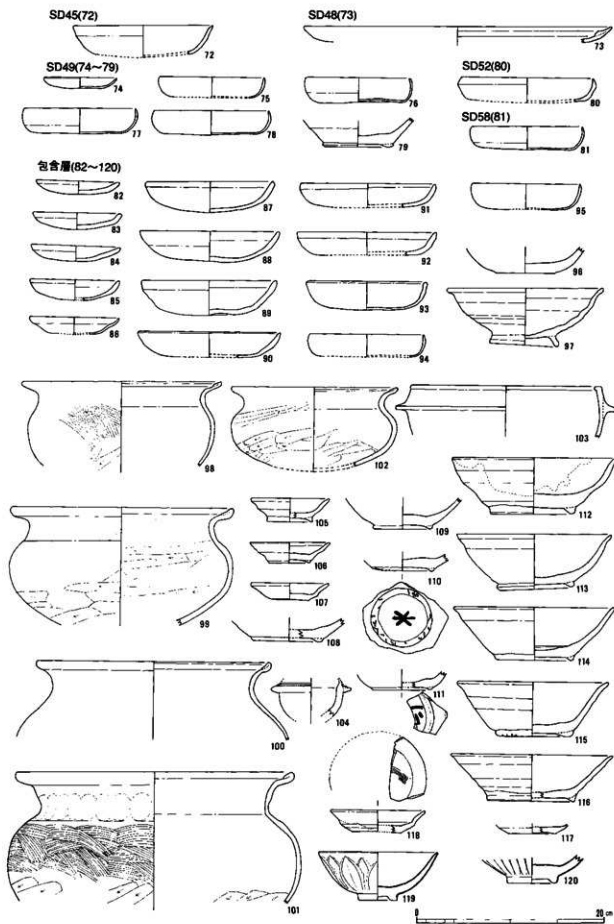
第5-10表 出土遺物観察表

標記番号	出土位置	種類 (図種)	器形	寸法 (cm)		観察事項		色質	胎土	焼成	残存数	備考	実測 No
				1径	器高	成形	観察技法の特徴						
130	K16 包含層	鉄製品	鉄 鎌	残存長: 34.5	鍛造・断面は二等辺三角形。基部台形を呈す。			材質: 鉄			基部、基部一 部欠失		117
131	G14P1 SB3	鉄製品	鉄 釘	残存長: 3.8	鍛造・断面はほぼ四角形を呈す。			材質: 鉄			先端部 欠失		145
132	J10 SK9	鉄製品	鉄 釘	残存長: 0.2	鍛造・断面はほぼ四角形を呈す。			材質: 鉄			先端部 欠失		143
133	E14 SD44	鉄製品	鉄 釘	残存長: 0.3	鍛造・断面はほぼ四角形を呈す。			材質: 鉄			先端部 欠失		142
134	F9 pit1	鉄製品	鉄 釘	残存長: 0.5	鍛造・断面はほぼ四角形を呈す。			材質: 鉄			先端部 基部欠		144
135	N17 包含層	鉄製品	鉄 釘	残存長: 4.5	鍛造・断面はほぼ四角形を呈す。			材質: 鉄			先端部 基部欠		122
136	N17 包含層	鉄製品	鉄 釘	残存長: 2.7	鍛造・断面はほぼ四角形を呈す。			材質: 鉄			先端部 欠失		171
137	N17 包含層	鉄製品	鉄 釘	残存長: 4.5	鍛造・断面はほぼ四角形を呈す。			材質: 鉄			基部片 のみ		172
138	N17 包含層	鉄製品	鉄 釘	残存長: 5.2	鍛造・断面はほぼ四角形を呈す。			材質: 鉄			基部片 のみ		173

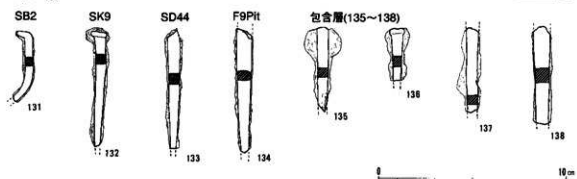
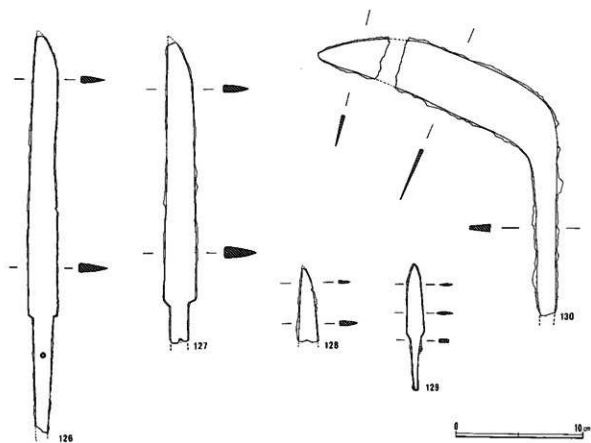
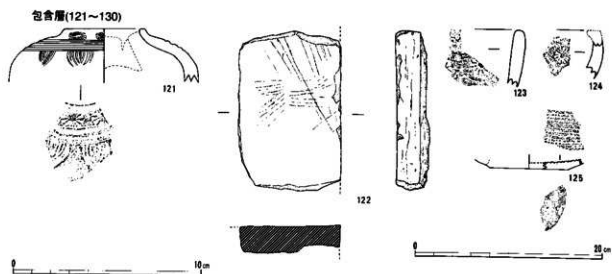
第5-11表 出土遺物観察表



第16図 出土遺物実測図(1:4)



第17図 川上遺物実測図(1:4)



第18図 出土遺物実測図 (121・122, 131~138は1:2, 123~125は1:4, 126~130は1:3)

4. 結 語

今回の調査で検出された主な遺構としては、掘立柱建物4棟、中世墓1基がある。その他、中世墓と思われる土坑、溝等の遺構が検出された。その時期であるが、土器小片のため時期決定の難しいものが大半である。ここでは、掘立柱建物、土坑を中心に若干の検討を行っておく。

掘立柱建物は4棟（SB1～4）検出されているが、SB1は出土遺物がなく、SB4の出土遺物は土鍾3点のみで、出土遺物から時期を推定できる建物はSB2・3の2棟である。SB2の時期は、柱掘形から出土した土師器小皿（1～6）・皿（7～10）からみて鎌倉時代前半とおきたい。SB3の時期は、柱掘形から出土した土師器小皿（11）・皿（12）、山皿（13）からみて、SB2と同じく鎌倉時代前半であろうと思われる。SB1とSB4は、棟方向がほぼ直交することから、同時期とも推定できる。

中世墓としたSX6は、埋土中から出土した土師器小皿（17～20）、山茶碗（21）からみて平安時代末葉のものと思われる。

土坑は、29基検出された。そのうち、5基（SK19・21・22・28・29）は中世墓の可能性も考えられる。SK19・21・28は、いずれもほぼ同じ規模の隅丸方形の土坑である。出土土器からみてSK21・28は、鎌倉時代後半のものと考えられる。SK19は土師器皿・鍋が出土しているが、細片のため時期は不明である。SK22・29はほぼ同じ規模の円形土坑で、出土土器からみてSK29は鎌倉時代後半、SK22は室町時代前半のものと考えられる。以上の5基の

土坑に類似した形態、規模の土坑は、当調査区と同時期に発掘調査された蚊山遺跡左郡地区でも多数検出されている^⑤。他に平安時代末葉、鎌倉時代前半、鎌倉時代後半の土坑をそれぞれ2基、室町時代前半のものを1基検出したが、その性格はいずれも不明である。

溝は、東西に走るものと南北に走るものに大別される。出土遺物から時期決定できたものは、平安時代末葉、鎌倉時代前半のものがそれぞれ1条、室町時代前半のものが5条である。区画性のある溝ではなく、お互いに重複したり交差しており、その性格は不明である。

以上、今回検出された掘立柱建物、土坑、溝の時期について述べたが、要約すると掘立柱建物は、時期不明のSB1・4を除き鎌倉時代前半頃につくられたと判断できる。SB2とSB3には、出土遺物に若干の時期差がみられ、SB3の方が新しいと思われる。また、平安時代末葉の中世墓SX6、鎌倉時代後半～室町時代前半の中世墓である可能性が考えられるSK21・22・28・29などから判断して、当調査区は、平安時代末葉に墓が築かれたがその後、鎌倉時代前半に集落となり、鎌倉時代後半～室町時代前半になって、再び墓が築かれるという変遷を辿ったと考えられる。しかし、蚊山遺跡所り垣地区は、広大な遺跡範囲をもつ蚊山遺跡のごく一部であり、並行して発掘調査が行われた左郡地区との関連など今後の研究の成果を待ちたい。

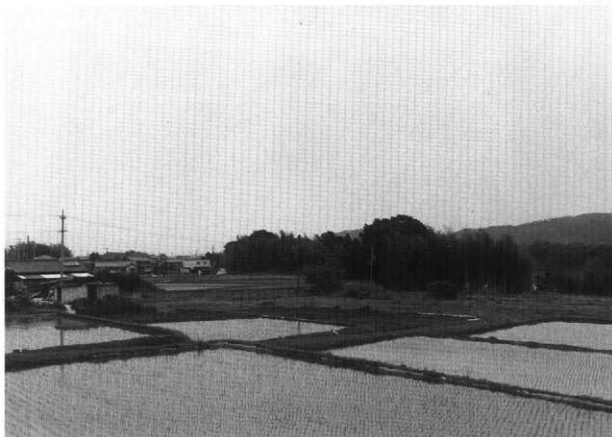
（稲本賢治）

〔註〕

- ① 藤澤良祐「瀬戸（古宮跡群1）」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要Ⅰ』瀬戸市歴史民俗資料館 1982
- ② 新田 洋「平安時代～中世における煮炊用具—「伊勢型」鍋—に関する若干の考察」『三重考古学研究』1 三重考古学談話会 1985
- ③ 伊藤裕隆「中世南伊勢系の土師器に関する一試論」『Mishist

ory』vol.1 三重歴史文化研究会 1990

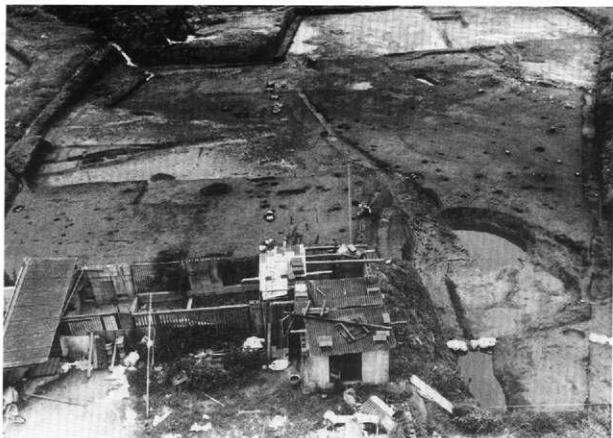
- ④ ①と同じ
- ⑤ 賢元洋「公文遺跡（Ⅱ）」豊橋市教育委員会 1989
- ⑥ 小坂克広 他「蚊山遺跡」『近畿自動車道（勢和～伊勢）埋蔵文化財発掘調査概報Ⅵ』三重県教育委員会・三重県埋蔵文化財センター 1990



調査前風景（南西から）



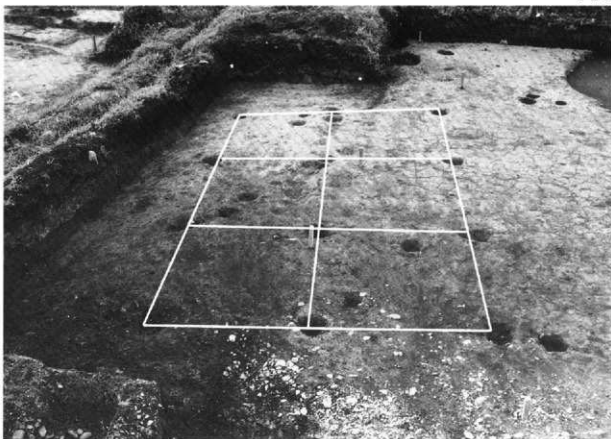
調査区全景（南西から）



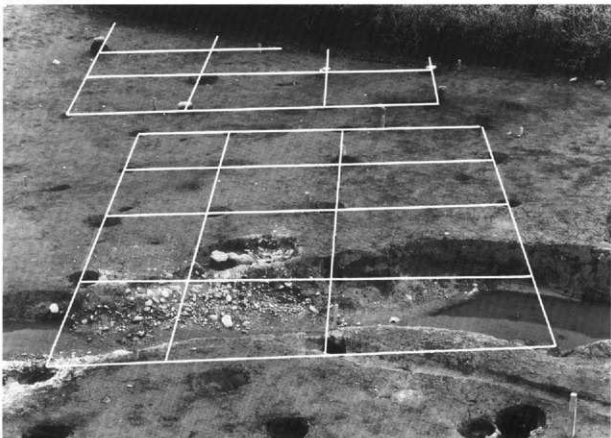
A地区全景（北西から）



B地区全景（西から）

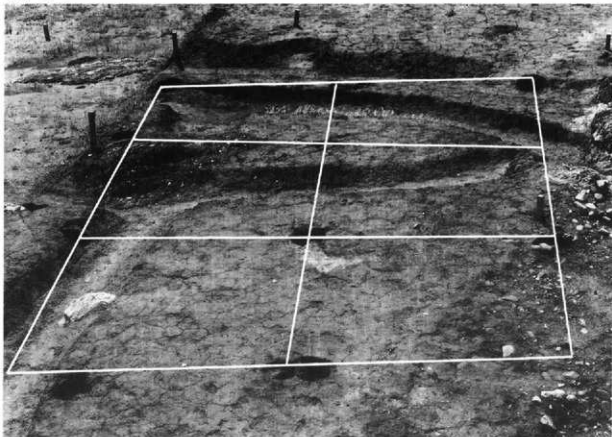


SB 1 (東から)

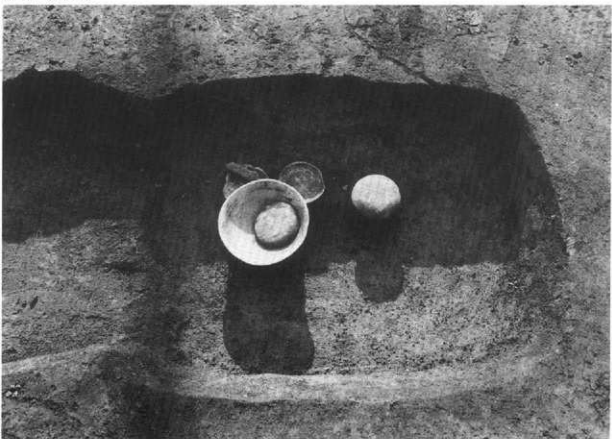


SB 2・3 (北から)

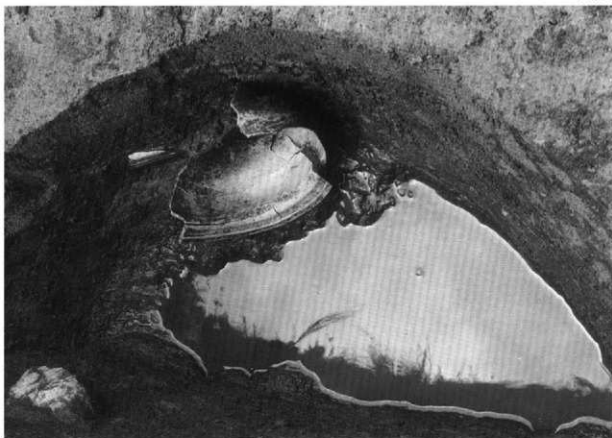
PL-4



SB4 (北から)



SX6 (東から)



S K13 (南から)

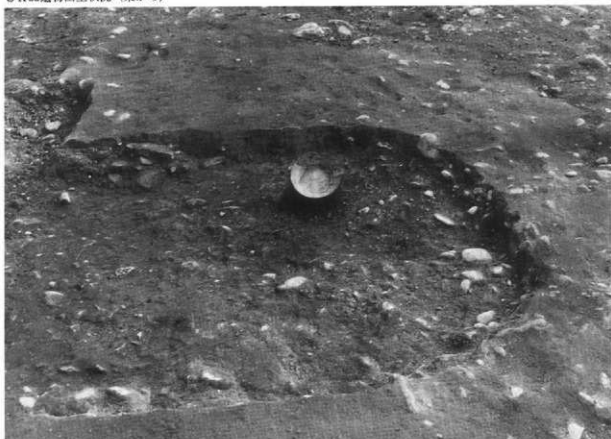


S K18検出状況 (東から)

PL 6



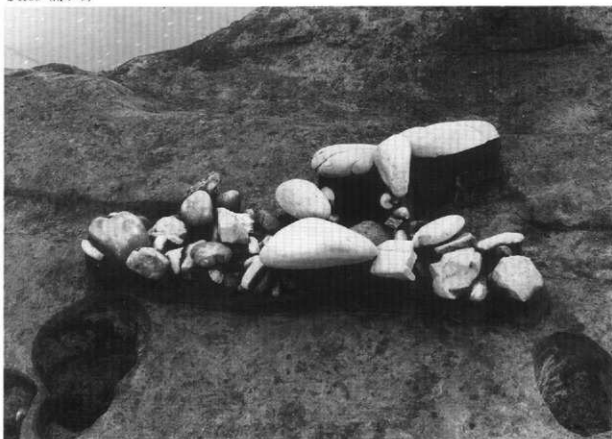
S K22遺物出土状況（東から）



S K24（北から）



S K28 (南から)



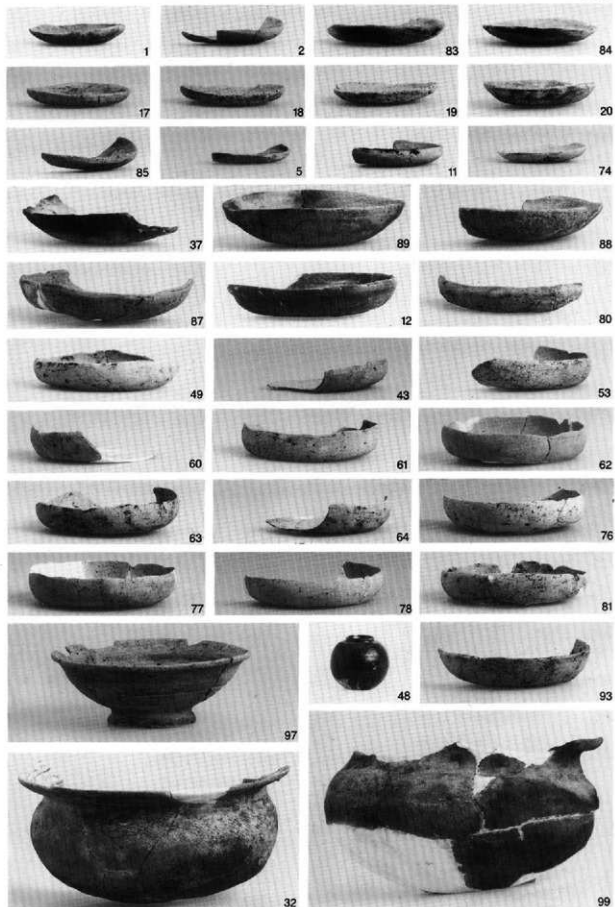
S Z35 (北から)



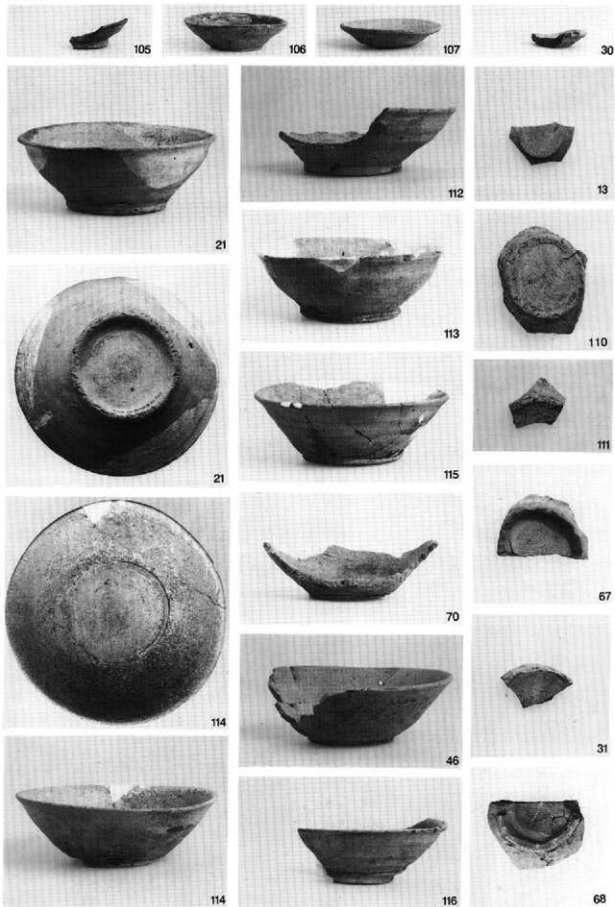
SD40土師器皿 (53) 出土状況 (東から)



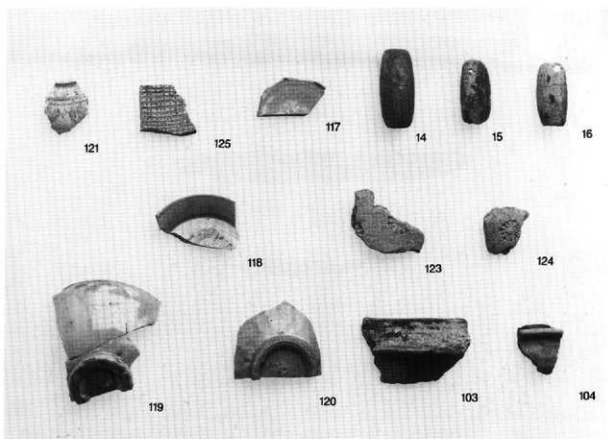
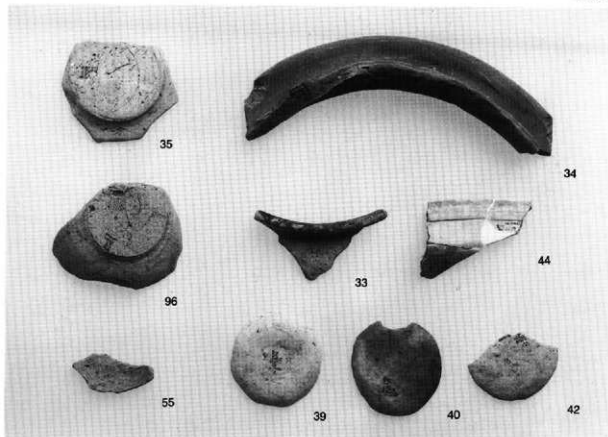
SD49土師器皿 (77) 出土状況 (北から)



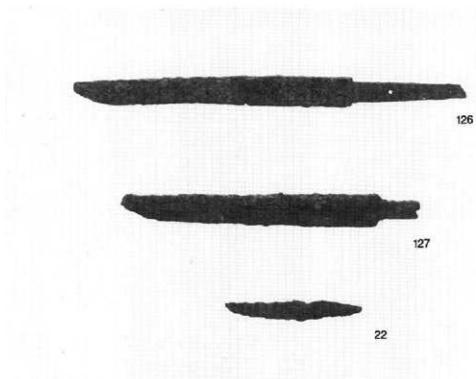
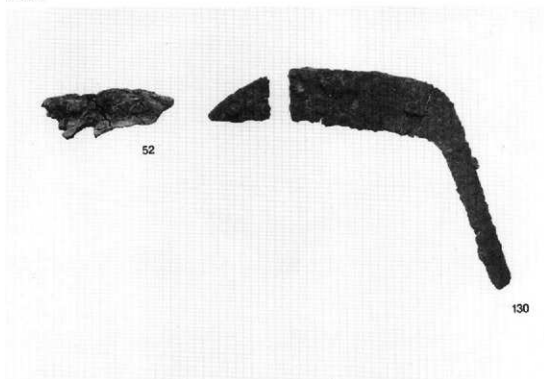
出土遺物 (1 : 3)



出土遺物 (1 : 3)



出土遺物 (1 : 3)



出土遺物 (1 : 3)

平成4(1992)年3月に刊行されたものをもとに
平成19(2007)年1月にデジタル化しました。

三重県埋蔵文化財調査報告101-4

近畿自動車道（勢和～伊勢）

埋蔵文化財発掘調査報告

—第4分冊—

1992（平成4）年3月31日

編集 三重県教育委員会
発行 三重県埋蔵文化財センター
印刷 東海印刷株式会社
